平成30年第1回(3月)みなかみ町議会定例会会議録第1号

平成30年3月6日(火曜日)

議事日程 第1号

平成30年3月6日(火曜日) 午前9時開議

日程第 1	会議録署名議員の指名
日程第 2	会期の決定
日程第 3	議長諸報告
日程第 4	閉会中の継続調査に関する委員長報告について
日程第 5	請願・陳情文書表
日程第 6	報告第 1号 平成29年度猿ヶ京温泉交流公園イベント広場及び駐車場整備工事請負変更契約の専決処分報告について
日程第 7	諮問第 1号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて
日程第 8	議案第 1号 みなかみ町固定資産評価員の選任について
日程第 9	議案第 2号 みなかみ町教育委員会委員の任命について
日程第10	議案第 3号 みなかみ町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
日程第11	議案第 4号 みなかみ町営住宅管理条例の一部を改正する条例について
日程第12	議案第 5号 みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例について
日程第13	議案第 6号 みなかみ町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
日程第14	議案第 7号 みなかみ町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について
日程第15	議案第 8号 みなかみ町福祉作業所条例を廃止する条例について
日程第16	議案第 9号 みなかみ町介護保険条例の一部を改正する条例について
日程第17	議案第10号 みなかみ町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について
日程第18	議案第11号 みなかみ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
	議案第12号 みなかみ町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
	議案第13号 みなかみ町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

	議案第14号	みなかみ町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例について
日程第19	議案第15号	みなかみ町工場立地法に基づく地域準則条例について
日程第20	議案第16号	みなかみ町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例について
日程第21	議案第17号	指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 デイサービスセンターほたるの苑）
	議案第18号	指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 水上デイサービスセンター）
	議案第19号	指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 新治ふれあいセンター）
	議案第20号	指定管理者の指定について（みなかみ町福祉センター）
	議案第21号	指定管理者の指定について（みなかみ町真沢ファーム交流施設）
日程第22	議案第22号	町道路線廃止について
	議案第23号	町道路線認定について
日程第23	議案第24号	平成29年度みなかみ町一般会計補正予算（第4号）について
	議案第25号	平成29年度みなかみ町介護保険特別会計補正予算（第1号）について
	議案第26号	平成29年度みなかみ町下水道事業特別会計補正予算（第2号）について
日程第24	議案第27号	平成30年度みなかみ町一般会計予算について
	議案第28号	平成30年度みなかみ町国民健康保険特別会計予算について
	議案第29号	平成30年度みなかみ町後期高齢者医療特別会計予算について
	議案第30号	平成30年度みなかみ町介護保険特別会計予算について
	議案第31号	平成30年度みなかみ町下水道事業特別会計予算について
	議案第32号	平成30年度みなかみ町水道事業特別会計予算について
日程第25	一般質問	

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（17人）

1番	高橋久美子君	2番	森健治君
3番	鈴木初夫君	4番	石坂武君
5番	小林洋君	6番	林誠行君
7番	中島信義君	9番	阿部賢一君
10番	林一彦君	11番	山田庄一君
12番	河合生博君	13番	原澤良輝君
14番	高橋市郎君	15番	久保秀雄君
16番	小野章一君	17番	森下直君
18番	林喜美雄君		

欠席議員 なし

会議録署名議員

3番	鈴木初夫君	15番	久保秀雄君
----	-------	-----	-------

職務のため議場に出席した事務職員の職氏名

議会事務局長	高橋康之	書記	本間泉
書記	田村勝		

説明のため出席した者

町長	前田善成君	教育長職務代理	利根川太郎君
参与	田村秀君	会計課長	中島直之君
総務課長	原澤志利君	総合戦略課長	宮崎育雄君
エコパーク推進課長	高田悟君	税務課長	岡田宏一君
町民福祉課長	内田保君	子育て健康課長	鈴木伸一君
生活水道課長	高橋孝一君	農政課長	田村雅仁君
観光商工課長	澤浦厚子君	地域整備課長	古川文雄君
教育課長	杉木隆司君	新治支所長	田村良一君

開 会

午前9時 開会

議 長（林 喜美雄君） おはようございます。

本日、議員各位におかれましては、諸般にわたりご多忙のところ定刻までにご参集いただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまの出席議員は17名で定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより平成30年第1回3月みなかみ町議会定例会を開会いたします。

町長挨拶

議 長（林 喜美雄君） 本定例会に際し、町長より挨拶の申し出がありましたので、これを許可いたします。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町 長（前田善成君） 議長のお許しをいただきましたので、議会開会に当たり一言ご挨拶申し上げます。

啓蟄も過ぎ、春の芽吹きも待ち遠しい季節になりました。

行政は年度末を迎え、慌ただしい時期を迎えることとなります。

この冬は、北陸地方の豪雪報道を目にし、4年前だと思いますが、関東地方の豪雪が思い出されました。

今季は幸いにも、みなかみ町では混乱を来す降雪量ではなく、町の除雪体制も他の自治体に比べ充実しており、地域の安心安全が確保されていると感じているところです。

12月議会定例会以降、閉会中も議員各位におかれましては、施策や交流の促進のため、県内外へ多くの派遣や出張により調査活動を行っていただき、また、各常任委員会、特別委員会とも頻繁に開催され、施策の検討等をいただきました。

熱心な議員活動に、改めて敬意を表する次第であります。

2月6日に、交流自治体である中野区と防災時相互応援協定を締結しました。

当日は、田中区長、いでい中野区議会議長、林議長ご同席のもと、和やかに調印式が行われました。

本協定の発動がないことを切に願うところであります。

2月24日から2月27日まで、林議長とともに台南市を訪問してまいりました。

台南市との交流も5年目を迎え、着実に成果を上げていると感じております。

さて、本日の議会定例会に提案いたします案件は、報告1件、諮問1件、人事2件、条例14件、補正予算3件、当初予算6件、その他7件であります。

詳細につきましては後ほど説明させていただきますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます、開会の挨拶といたします。

開 議

議 長（林 喜美雄君） これより本日の会議を開きます。
本日の会議は、お手元に配付いたしました議事日程第1号のとおりであります。
議事日程第1号により、議事を進めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

議 長（林 喜美雄君） 日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。
会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、議長において指名いたします。
3番 鈴木初夫君
15番 久保秀雄君 を指名いたします。

日程第2 会期の決定

議 長（林 喜美雄君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。
本定例会の会期につきましては、議会運営委員会にも諮りまして、本日3月6日より3月16日までの11日間としたい考えであります。
これにご異議ございませんか。
（「異議なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） 異議なしと認めます。
よって、本定例会の会期は、本日3月6日より3月16日までの11日間と決定いたしました。

日程第3 議長諸報告

議 長（林 喜美雄君） 日程第3、議長諸報告を行います。
これより議会閉会中の主な事項について報告をいたします。
12月定例会後、閉会中とはいえ大変多くの諸行事があり、副議長を初め各委員長、各委員の参加をお願いいたしまして、ご協力をいただきました。
12月22日には、さる9月29日に友好都市連携協定を締結した伊奈町の大島町長を前田町長とともに表敬訪問しました。
本町と伊奈町は、平成17年から両町の観光協会等を通して友好を深めてきた経過があり、民間レベルでの交流の背景を踏まえて、さらなる友情と信頼を深め、相互の発展が期

待されるところであります。

1月24日から27日の4日間は、中学生海外派遣事業の現地調査と台南市との交流促進のため、台湾派遣議員視察団の皆さんと一緒に台湾行政視察を行いました。

滞在中には、台南市政府新聞及び国際関係処キョ所長との意見交換や、本町中学生と台湾スイメイ中学校生徒との交流の様子を視察するとともに、台北市教育局を表敬訪問し、情報交換を行いました。

また、台湾政府、台湾日本関係協会のハン副支所長及び台湾政府外交部の担当者も交えて、本町との交流促進について意見交換もでき、大変有意義な行政視察となりました。

平成30年に入り、1月7日には、消防団出初め式が挙行されました。

近年、大型台風や異常気象等による豪雨に直面し、多くの災害が各地で発生しております。

このようなときに当たり、地域住民と最も密接な関係を持って活躍されている消防団の皆様方が、これらの災害に対処するため、日々訓練に積極的に励んでおりますことに、新年に当たり改めて感銘したところであります。

また、同日午後1時には、みなかみ町成人式が挙行されました。

226名の新成人の皆さんには、これを契機として、これからの人生に誇りと責任を持って、大いに前進し、あすの社会を明るくする原動力となるよう、より一層の社会参加を期待するものであります。

1月12日には、本町の公職につかれています方々とともに、みなかみ町新年賀詞交歓会が盛大に開催されました。

新しい年を迎え、本町のこれからの発展に向けて各方面の皆様方と意見交換できましたことは、大変意義深く、心より感謝申し上げるところであります。

2月3日は、町内小学校がそれぞれの地域の特色を生かし、自然や地域に関する学習に取り組んでいるその成果を発表する環境学習発表会が開催されました。

それぞれの学校から発表された内容は、まさにみなかみユネスコエコパークの理念に結びつくものだと、深い感動を受けたところであります。

2月6日には、これまで積極的な交流を行ってきた東京都中野区との、災害時における相互応援に関する協定調印式に出席いたしました。

中野区との、なかの里・まち連携協定に基づいた取り組みや、町内事業者との商談会開催などを踏まえて、今後、災害時の相互応援に向けた取り組みに期待するものであります。

2月14日には、利根沼田地域行政懇談会が開催され、県の平成30年度の予算概要及び主な取り組みについての説明があり、利根沼田地域の課題や今後の行政運営のあり方について活発な意見交換が行われました。

2月21日には、群馬県町村議会議長会総会が開催され、さる2月8日の開催の全国町村議会議長会でみなかみ町議会が栄誉ある町村議会表彰を受けたことが報告され、その賞状と記念品が群馬県町村議会議長会長より伝達されました。

2月24日から27日の4日間の日程で、前田町長とともに台湾台北市・台南市を表敬訪問しました。

また、本年7月に開催予定の第4回台日議員交流サミットの会場となる高雄市にも表敬訪問いたしました。

今回の台湾訪問にあわせて、台湾東部地震に対する町当局と町議会からの義援金を、台南市政府経由で台湾政府にお願いすることといたしました。

一日も早い復興をお祈りするものであります。

3月2日には、本町と友好都市交流を行っている茨城県取手市のひなまつりに参加をいたしました。

ひなまつりに先立ち、取手市長並びに取手市議会議長を表敬訪問し、今後の友好都市交流についての意見交換を行うことができました。

その他の日程につきましては、議会事務局で閲覧くださるようお願いをいたします。

以上をもちまして議長諸報告といたします。

日程第4 閉会中の継続調査に関する委員長報告について

議長（林喜美雄君） 日程第4、閉会中の継続審査に関する委員長報告についてを議題といたします。

所管の委員長報告を求めます。

厚生常任委員会委員長高橋市郎君。

（厚生常任委員長 高橋市郎君登壇）

厚生常任委員長（高橋市郎君） 厚生常任委員長高橋市郎、閉会中における厚生常任委員会の視察研修報告を申し上げます。

平成29年12月15日に、茨城県のつくば先端事業所とアグリル株式会社のごみ処理施設（民間事業所内の機械）の視察を行いました。

この研修の目的につきましては、奥利根アメニティパークの固形化燃料化施設のコスト削減計画の取り組みの研修であります。

奥利根アメニティパークの現状と課題につきましては、皆様ご案内のとおり、平成10年に操業を始め、現在19年目を迎えており、かなりの老朽化が進み、年間3,000万から4,000万の修繕費、5,000万円強の電気料並びに年間のごみ処理委託費として平成28年までは約1億7,000万円かかっております。

そのほか、RDF（ごみ固形化燃料）を年間5,000万円以上の経費をかけ、処理を行っております。

この固形化施設経費の削減に関連した機械施設を視察してきました。

まず、初めのつくば先端事業所ですが、ここは今回、アメニティパークの経費削減には直接的には関係ありませんが、議員としての将来のかかわりに役立つと思い、チョウザメの日本で初めて人工ふ化に成功し、事業化している会社を見学しました。

説明の中で、チョウザメは生まれてから3年を経過しないと雄雌の判定ができないこと、なお、雌もキャビアをとれるのに8年かかることもお聞きしました。

なお、チョウザメの寿命は70年から100年といわれておりますが、はっきりしたことはまだわかっていないということでもあります。

なお、チョウザメは丈夫な魚で、人間が触れても何ら問題なく、非常に丈夫な魚であることや、口に歯がないため危険性が少ないので、観光の目玉に使えるのではないかと思います。

2つ目のアグリル株式会社は、民間のごみ堆肥センター内にあるごみの乾燥システムの機種の説明を受け、実際の機械では、今回みなかみ町の可燃ごみ（生ごみ、燃えるごみ、紙おむつ）を事前に運び込み、処理をしていただき、その現状を視察してきました。

メリットとしては、においはなく、排水処理水もなく、かつ作業する人の苦労が少ないのも目立ちました。

機械自体はシンプルで、町指定のごみ袋であれば、その中に入るものは適応可能と説明を受けました。

機械の中身は、袋のごみが機械の中にくるくると回っているだけで、徐々に機械の中の温度を上げ、機械の中の微生物が活発になり、ごみを分解し、乾燥した状態で出てくるというもので、生ごみは堆肥状態に、燃えるごみはビニール系が残ります。

紙おむつは原形を残し、乾燥した状態のまま出てくるという状態であります。

以前から、事務局より、広域に移行案、自立焼却場案、長寿命化計画案、改修計画案の報告を受けた中で、固形化燃料化施設の乾燥部の一部を改修を行った場合の機械の選択肢として、視察を行ってまいりました。

町の改修計画では、経費が大幅にかかっている固形化燃料施設の乾燥部の光熱費（電気、灯油）の改善をすることで、大幅な経費の削減が見込めるため、処理方式は環境に優しくごみの循環型社会構築の推進そのものなので、現在のままで機種の部分改修を進めていくのが、時間及びコストの削減を行えると思われました。

いろいろと問題点が多いアメニティパークの固形化燃料施設の経費削減につながる研修であったと思います。

次に、平成30年2月26日、27日の2日間にわたり、福島県相馬有害鳥獣焼却場及び高崎市の高崎火葬場の視察を行いました。

この研修の目的につきましては、年々ふえる獣害の処理について、獣害センターより相談を受け、火葬場建設計画の一環としての問題として協議を進めてまいりました。

死亡した小動物は一般廃棄物扱いになるため、焼却場の現状調査と当町の老朽化した火葬場の建設についてを目的にした研修でありました。

現在、町での捕獲有害鳥獣の処理は、年間1,000頭に及びます。

町ではごみを焼却していないため、小動物は冷凍し、町外に持ち出し処理を行っている状況であり、大型動物は埋設処理を行っていますが、埋設にも限界が迫っているため、獣害担当者より相談を受け、検討しましたが、大型の動物の死骸は処理できない報告も受けております。

また、町の火葬場は、老朽化が進み、修繕経費も増加傾向にあり、最近、焼却部分でのふぐあいが起き、いつ焼却がストップするかわからないような危機的な状態でもあり、一

時でも早い方向性を出さないと危険な状態にあります。

まず、初めに、相馬有害鳥獣焼却センターに行き、相馬方部衛生組合総務課長の説明では、東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質汚染によって出荷制限及び摂取制限となり、流通、消費ができなくなったイノシシによる農作物の被害が深刻となり、積極的な駆除対策を推進していますが、捕獲頭数の増加及び埋設処理困難という課題に直面していることから、環境保護面等に適合した捕獲有害鳥獣（イノシシ等）専用の焼却施設を整備しましたとの概要説明を受け、その後、担当係長より詳細説明を受けました。

現在、相馬の規模ですが、鉄骨平屋建て一部2階建て、建築面積約240平方メートル、焼却炉1基、焼却能力として毎時200キロ未満であります。テスト焼却を行った結果、経費面などを考慮して、1回当たりの焼却量を120キロ程度がベストであるため、現在これで焼却を行っているとのことでした。

排気ガス処理設備完備（冷却機）バグフィルター、保管冷凍庫、猪20頭程度、残灰保管施設の整備規模で行っているということでもあります。

設備は全自動で、人の行う作業は少なくなっていますとの詳細な説明を受け、その後質疑に入りました。

質疑では、焼却施設の運営方法については受付時臨時を1名、焼却時は2名で対応を行っているとのことでありました。

焼却施設の年間稼働状況については、28年度は280頭（そのうち220頭は27年度分）、29年度は500頭ぐらいであるということの説明を受け、獣害の処理している割合についてはイノシシ、猿、ハクビシン、タヌキ、カラスなどですが、処理している9割がイノシシであるとのことでありました。

処理時間については、全工程で3時間（午前1回、午後1回）とのことでした。

年間維持管理費については、人件費、焼却費込みで年間830万円程度で、焼却処理中の煙及び臭気対策については、煙、臭気の出ない機種にしているため問題はなく、焼却施設の運転要員の技術については、この焼却規模ではボイラー資格の必要はなく、必要なのはクレーン資格、玉掛けが必要であるとのことでした。

バックアップ体制については別段問題ありませんとの、詳細な質問に答えてもらいました。

頭数から見れば、当町も同様な規模で十分であると考えます。

次に、2日目の高崎斎場ですが、まず、高崎市市民課長より火葬場の概要説明を受け、建設時の地元協議及び反対運動についての質問には、もともと高崎火葬場があったため、要望及び反対はそれほどありませんでしたとのことでした。

高崎斎場は平成28年3月に完成した大型火葬場で、火葬炉12基、収骨室6室、お別れ室3室、式場3室、200人、100人、10人規模であり、規模としては当町とはかけ離れておりますが、今回は最新式の火葬場の設備機種の視察であるため、高崎市の許可をいただき、火葬炉の説明にはメーカーをお願いをし、説明に入りました。

特徴としては、災害に強い斎場である、斎場は地震災害時においてもとまることなく火

葬を続ける必要がある、現在の棺は190センチが標準であるが、高崎の火葬炉1炉は特大火葬炉があるとのことでありました。

あとは、今回特に力を入れたのがダイオキシン関係で、高崎市はダイオキシンの目標を掲げているため、バグフィルター設備をしっかりと行っている旨の説明を受け、その後、実際の火葬場のバックヤードに行き、機器の説明を受けました。

火葬炉設備は小さなパネルの全自動で行っており、全自動制御システム、高崎火葬炉の特徴は、富山県の本社で個々の火葬炉のデータ及び運転履歴を保管し、火葬炉故障時の対応を短時間で解決できるように、遠隔監視システムを導入し、安全に火葬業務ができる体制を整えておるとのことでありました。

町の現状としましては、火葬炉がとまった場合、業者に連絡をし、業者が到着するまでに半日、そこで設備をばらし、故障箇所の確認を行い、部品を手配し、修繕を行うため二、三日が必要ということではありますが、高崎市の斎場は遠隔で行っているため、1日以内で修繕が終わるとのことでありました。

メーカーの説明では、高崎市は新しい設備であるので、故障・トラブルは現状はゼロでありますけれども、このようなシステムを採用すれば、現在の火葬炉トラブルは99%ありませんという、自信を持った発言でありました。

こうした先端技術は、現在検討しているみなかみ町火葬場につながる点が大いにあると考えます。

なお、管理運営面ではありますが、地元業者にて指定管理運営で行ってまいりました。

その中で少し驚いたのは、施設も最新式であるかもしれませんが、若い作業員がてきばきと作業を行っている点でありました。

以上を申し上げ、休会中の厚生常任委員会の視察研修の報告とさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） 以上で厚生常任委員会委員長高橋市郎君の委員長報告を終わります。

以上をもちまして閉会中の継続調査に関する委員長報告を終わります。

日程第5 請願・陳情文書表

議長（林 喜美雄君） 日程第5、請願・陳情文書表についてを議題といたします。

今期定例会において、本日までに受理しました請願・陳情はお手元に配付いたしました請願・陳情文書表のとおりであります。

[巻末 参考資料]

議長（林 喜美雄君） 以上、文書表のとおり所管の委員会に付託いたしますので、よろしくお願いをいたします。

日程第6 報告第1号 平成29年度猿ヶ京温泉交流公園イベント広場及び駐車場整備工事請負変更契約の専決処分報告について

議長（林 喜美雄君） 日程第6、報告第1号、平成29年度猿ヶ京温泉交流公園イベント広場及び駐車場整備工事請負変更契約の専決処分報告についてを議題といたします。

町長より専決処分報告の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 報告第1号につきまして説明申し上げます。

本件につきましては、猿ヶ京温泉交流公園イベント広場及び駐車場整備工事の建設工事変更請負契約の専決処分についてのご報告になります。

平成29年6月議会で契約の議決を得まして、猿ヶ京温泉交流公園イベント広場及び駐車場整備工事を施工してきたところであります。工事の進捗に伴い、雨水処理の仕様変更や設計内容の精査などにより、126万3,600円を増額し、契約金額を6,671万1,600円として変更契約するものであります。

地方自治法第180条第1項の規定により、平成29年12月11日に専決処分したところであります。よろしくご審議の上、ご承認くださりますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 以上で報告第1号、平成29年度猿ヶ京温泉交流公園イベント広場及び駐車場整備工事請負変更契約の専決処分報告についてを終わります。

日程第7 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議長（林 喜美雄君） 日程第7、諮問第1号、人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（「議長、暫時休憩願います」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 暫時休憩します。

（9時30分 休憩）

（9時33分 再開）

議長（林 喜美雄君） 会議前に引き続き会議を再開します。

その辺について、総務課長より、ちょっと説明をいただきます。

（「議会運営上の問題だって」の声あり）

議長（林 喜美雄君） だから、その質問に対して。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） すみません、お答えします。

専決処分、契約金額の専決処分につきましては、契約金額の5%までは町長の専決ということでお認めをいただいていると思っておりますので、今回ご報告ということでさせていただきます。と思っております。

ただ、そういった部分でご審議いただいておりますご承認ということも、ケースによっては当然あるわけがございますので、今、先ほど議長が申し上げたように、今回報告でということであれば報告で済むというふうを考えております。

議長（林 喜美雄君） 説明が終わりました。

（「休憩」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 休憩。

（9時34分 休憩）

（9時35分 再開）

議長（林 喜美雄君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

町長。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 先ほどの報告第1号の答弁につきまして、最後の「よろしくご審議の上、ご承認くださいますようお願い申し上げます」という部分については、訂正させていただきます。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 暫時休憩。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 町長。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 「よろしくご審議の上、承認くださいますようお願い申し上げます」の部分削除させていただきます、「報告いたします」という形に訂正させていただきます。

議長（林 喜美雄君） 以上で報告第1号についての専決処分報告についてを終わります。

日程第7、諮問第1号、人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 諮問第1号についてご説明申し上げます。

現在、人権擁護委員として平成24年7月より2期にわたりご活躍いただいておりますみなかみ町藤原3534番地の2の山崎健次さんが、平成30年6月30日をもって任期満了となりますので、前橋地方法務局長より後任委員の推薦依頼が来ております。

つきましては、新たに藤原4002番地の蛸谷利孝さんを推薦いたしたく、人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものでございます。

蛸谷利孝さんにおかれましては、民生委員、児童委員を初めとする公職経験が豊富で、

人格識見にすぐれ、人権擁護委員として適任者でありますので、よろしくご審議賜り、ご決定いただきますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。
諮問1号について質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて諮問第1号の質疑を終結いたします。
これより諮問第1号について討論に入ります。
まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて諮問第1号の討論を終結いたします。
諮問第1号、人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてを採決いたします。

本案は原案のとおり同意することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、諮問第1号、人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについては原案のとおり同意されました。

日程第8 議案第1号 みなかみ町固定資産評価員の選任について

議長（林 喜美雄君） 日程第8、議案第1号、みなかみ町固定資産評価員の選任についてを議題といたします。

ここで岡田税務課長の退席を求めます。

（税務課長 岡田宏一君退席）

議長（林 喜美雄君） 町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第1号についてご説明申し上げます。

みなかみ町固定資産評価員に、固定資産の評価に関する知識及び経験を有する者として、税務課長岡田宏一を選任したいので、地方税法404条第2項の規定により議会の同意を求めるものでございます。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。
議案第1号について質疑はありますか。

9番阿部賢一君。

9 番（阿部賢一君） 質疑ではないんですけども、文言なんですけれども、こちらの議案第1号には「議会の議決を求める」というふうに記してあります。

先ほど、町長におかれましては、同意を求めるような説明を受けたんですけども、どちらが正しいんでしょうか。

議長（林 喜美雄君） ちょっと暫時休憩します。

（9時42分 休憩）

（9時43分 再開）

議長（林 喜美雄君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） すみません、お答えします。

「議会の同意を求めるものでございます。ご議決賜りますよう」ということでございますが、同意について議決を求めるという解釈をしていただければありがたいというふうに思っております。

議長（林 喜美雄君） 15番久保秀雄君。

15番（久保秀雄君） 今、総務課長から、この文書の解釈の問題で、こういう解釈ですという、示されたわけですけども、通常の議会の運営でいくと、そういう解釈はしないで、同意なら同意を求めると、こういう素直な表現になっているかと思うんですけども、その辺のほうは統一をするとか訂正をしていただいたほうが、すっきりするんだなと、こういうふうに思います。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） すみません。

解釈ということですけども、すみません、私の記憶の中では、議会の同意を求めるもので、人事案件につきましては、求めるものでございますということを踏まえて、たしか最後に、よろしくご審議の上、ご議決ということ、今までも言っていたような記憶がございますので、ぜひそういう形でお願いできればと思います。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 久保君。

15番（久保秀雄君） 総務課長の言わんとすることはわかるんですけども、この文章の、議会の議決を求めると、これを議会の同意を求めると、今までの文書というか議案書もそういう表現だったと思うんですよ。

そうすると、ここで、あえてそんなわかりづらい表現をすることはないだろうと、こういう趣旨で、中身がどうのではなくて、その表現だけそういうふうに直したらどうですかと、そういうことです。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 語句の訂正をお願いします。

「よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます」のところを「ご同意賜りますようお願い申し上げます」に変更させていただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 質疑はほかにありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 固定資産が少ない場合は評価員を置かなくてもいいというふうに解釈できるということなんですけれども、町の町税の大部分は固定資産税というふうなことで、少ないというふうにはいえないんですけれども、そういう状態で今まで決定した……。

議長（林 喜美雄君） 原澤議員、マイクをちょっと。

13番（原澤良輝君） 固定資産が多い状態で決定して、今までの評価額というのは、扱いはどういうふうになるのか、教えてください。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） すみません、私、税務課長ではないので、なかなか答弁になるかどうか分かりませんが、今までこの件につきましては、実際には評価員を税務課長が兼ねていたと。

ただ、議会の議決、ご同意を失念していた経緯がずっとあったということでございますので、今回改めて、先ほど原澤議員がおっしゃるように、町の固定資産とすると少ないとはいえないという判断のもとで、今回ご提案させていただくということでございますので、今までも固定資産評価については税務課長が、実際にはそこについていたということでございます。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第1号の質疑を終結いたします。

これより議案第1号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第1号の討論を終結いたします。

議案第1号、みなかみ町固定資産評価員の選任についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第1号、みなかみ町固定資産評価員の選任については原案のとおり可決さ

れました。

ここで岡田税務課長の退席を解きます。

(税務課長 岡田宏一君着席)

日程第9 議案第2号 みなかみ町教育委員会委員の任命について

議長(林 喜美雄君) 日程第9、議案第2号、みなかみ町教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

(町長 前田善成君登壇)

町長(前田善成君) 議案第2号、みなかみ町教育委員会委員の任命についてご説明申し上げます。

現在、教育委員会として平成23年よりご活躍いただいております阿部剛氏が3月31日をもって任期満了となりますが、引き続き教育委員として阿部剛氏を任命いたしたく、議会の同意を求めるものであります。

阿部剛氏は、豊富な経験を持ち、人格識見と申し分なく、教育委員として適任者であります。

本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により、本委員の任命について議会の同意を得たく提案するものであります。

なお、任期につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第5条第1項の規定により、平成30年4月1日から平成34年3月31日までの4年間でございます。

よろしくご審議の上、ご同意賜りますようお願い申し上げます。

議長(林 喜美雄君) 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第2号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) ありませんので、これにて議案第2号の質疑を終結いたします。

これより議案第2号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) 次に、賛成討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) ありませんので、これにて議案第2号の討論を終結いたします。

議案第2号、みなかみ町教育委員会委員の任命についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第2号、みなかみ町教育委員会委員の任命については原案のとおり同意さ

れました。

日程第10 議案第3号 みなかみ町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第10、議案第3号、みなかみ町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第3号、みなかみ町国民健康保険税条例の一部を改正する条例についてご説明申し上げます。

地方税法及び航空燃料譲与税法の一部を改正する法律が平成29年3月27日に成立し、国民健康保険における財政責任主体が都道府県になることに伴う国民健康保険税の改正部分について、平成30年4月1日から施行されることになっています。

これに伴い、国民健康保険条例の一部を改正するものであります。

具体的には、県において保険給付費の実績や国から示される係数により県全体の保険給付費等を推計し、市町村から徴収する納付金額を決定いたします。

そして、その県全体の納付金総額を、県と市町村で協議してきた方法により市町村ごとの納付金額及び標準保険料率を県において決定いたします。

町は、国民健康保険税を賦課徴収し、県に納付金を納める仕組みへと改正されました。

法改正により、町での条例改正が必要な保険税賦課方式、保険税率、保険税の納付回数について、みなかみ町国民健康保険運営協議会に諮問いたしました。

運営協議会において、群馬県全体の国民健康保険運営方針並びに県で示した標準保険料率等を参考に検討いただき、諮問への答申をいただきました。

その内容を踏まえましての条例改正でございます。

主な改正内容は、賦課総額の算定方法を4方式から3方式に変更すること、保険税率につきましては、医療分の所得割率6.6%、均等割額2万6,000円、平等割額1万9,000円、後期高齢者支援均等分の所得割率2.4%、均等割額9,700円、平等割額7,000円、介護納付金分の所得割率1.8%、均等割額9,500円、平等割額4,500円に改正、納期の回数につきましては年12回から9回に変更するものでございます。

保険税額に関しましては、現行税率の額と比較しまして、町全体の保険税率総額で約2,000万、率で4.3%の引き下げになります。

また、納期は4月から6月は納付がなく、7月から3月までの9回になります。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。議案第3号について質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて……。

（発言の声あり）

議長（林 喜美雄君） 声を出して挙手をお願いします。

質疑ありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 30年度の予算で4億8,000万円の国保税の収入を計上しております。

29年度末の基金の予定はどのくらいなのか。

それから、これから基金はどのようになるのか、見通しがわかれば教えてください。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 原澤議員のご質問にお答えいたします。

基金の額、ちょっと正式な資料がないのであれなんですけれども、5億幾らかというような形になっているかと思えます。

また、基金につきましては、今までどおり町が持っていて、保険料等の、県に納付金というような形で30年度から納めるようになるんですけれども、保険税等で足りない部分については、その基金等を取り崩して支払っていくような形になるかと思えます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第3号の質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

議案第3号、みなかみ町国民健康保険税条例の一部を改正する条例については、所管の常任委員会に付託したいと思えますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第3号、みなかみ町国民健康保険税条例の一部を改正する条例については、所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

日程第11 議案第4号 みなかみ町営住宅管理条例の一部を改正する条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第11、議案第4号、みなかみ町営住宅管理条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第4号についてご説明申し上げます。

本件につきましては、第7次一括法による公営住宅法の改正に伴い条例改正するもので

あります。

内容といたしましては、公営住宅法改正による公営住宅法施行令及び公営住宅法施行規則の条の移動により、例規中の該当条の引用箇所について条例が発生しております。

それらに対応するため、町営住宅管理条例の一部を改正するものであります。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議 長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。
議案第4号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第4号の質疑を終結いたします。

これより議案第4号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第4号の討論を終結いたします。

議案第4号、みなかみ町営住宅管理条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第4号、みなかみ町営住宅管理条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

日程第12 議案第5号 みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例について

議 長（林 喜美雄君） 日程第12、議案第5号、みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町 長（前田善成君） 議案第5号についてご説明申し上げます。

みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例につきましては、平成29年6月14日の都市公園法施行令一部改正により、都市公園に設ける運動施設の敷地面積の総計の当該都市公園の敷地面積に対する割合、つまり運動施設率を地方公共団体の条例で定めることが必要になったことにより、新たに公園施設の敷地面積の制限事項を追加するものです。

また、平成29年5月12日に都市公園法の改正により、公募設置管理制度が創設され、これに対応するため公園施設の建築面積の基準、行為の制限等の改正が必要となりました。

以上の理由により、みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例の議決を求めるものであります。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。
議案第5号について質疑はありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 13条で指定管理の項が新たに新設されたんですけども、今後はこの指定管理を導入する予定があるんでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 地域整備課長。

（地域整備課長 古川文雄君登壇）

地域整備課長（古川文雄君） お答えします。

指定管理については、既に指定管理制度を設けて、一部の公園では指定管理をしておりますので、今までどおりということになります。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第5号の質疑を終結いたします。

これより議案第5号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第5号の討論を終結いたします。

議案第5号、みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第5号、みなかみ町都市公園条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

日程第13 議案第6号 みなかみ町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第13、議案第6号、みなかみ町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

(町長 前田善成君登壇)

町長(前田善成君) 議案第6号につきましてご説明申し上げます。

就学前の子供に関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部改正により生ずる特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準の一部を改正する内閣府令の条ずれに対応するための条例の一部を改正するものです。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長(林喜美雄君) 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第6号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) ありませんので、これにて議案第6号の質疑を終結いたします。

これより議案第6号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) 次に、賛成討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) ありませんので、これにて議案第6号の討論を終結いたします。

議案第6号、みなかみ町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第6号、みなかみ町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

日程第14 議案第7号 みなかみ町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について

議長(林喜美雄君) 日程第14、議案第7号、みなかみ町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

(町長 前田善成君登壇)

町長(前田善成君) 議案第7号についてご説明申し上げます。

町が実施する福祉医療制度の支給対象区分のうち、中学生までを対象とする子供の区分につきまして、より一層の健康の管理と福祉の向上を図るため、15歳に達する以降の最初の3月31日までの入院・通院を支給対象としているところを、15歳に達する日以降の最初の4月1日から18歳に達する日以降の最初の3月31日までの高校生世代に相当

する者のうち、医療機関に入院して医療を受ける者を対象とするなど、高校生世代にかかわる医療費助成の支給対象範囲を定めるものです。

また、高齢者の医療の確保に関する法律の一部改正に伴う住所地特例の見直しに付随する関係条文を改正するものです。

よろしくご審議賜り、ご決定いただきますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第7号について質疑はありませんか。

3番鈴木初夫君。

3番（鈴木初夫君） これは、町長が公約に出した内容ではないかと思いますが、これをやることによって、国もしくは県、そういうところからペナルティー的なものが科せられる可能性はあるのではないかという心配があるんですけれども、その辺いかがでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 鈴木初夫議員のご質問にお答えいたします。

ペナルティーについてなんですが、今回、入院のみということで提案させていただきまして、やり方といたしましては償還払いということで、入院された方から申請を受けて、それを後で本人に払うというような方法をとります。

そうしますと、ペナルティーはかからないようになりますので、そのような方法で進めさせていただければと考えております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 今回の改正では入院ということなんですけれども、入院でない医療費についてはどういうふうに考えているのか、ちょっと教えてもらえれば。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 今回の改正につきましては入院費のみで、通院につきましては助成はないというような形になります。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

5番小林洋君。

5番（小林 洋君） 確認なんですけれども、入院に限ってということなんですけれども、それは例えば、手術を伴っているとか、そういうこと、手術代も含めてということなんですか。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 小林議員のご質問にお答えいたします。

もちろん手術というか、入院されれば支給するという、助成するというような形ですので、手術も含まれます。

日帰り、例えば手術ということになると、ちょっと入院扱い、レセプトによって入院・通院というような判断が出てくると思いますので、1日でも入院というような扱いがあるのかもしれないんですけども、ちょっとその辺あれなんですけれども、手術はもちろん含まれるかと思います。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

6番林誠行君。

6番（林 誠行君） 先ほどの課長の説明ですとあれですが、これは保険適用部分ということでしょうか。

保険外の負担分とか、その範囲とか、そういうのは。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 林議員のご質問にお答えいたします。

保険外は適用になりません。

保険が適用になって、自己負担が通常3割かと思うんですけども、その3割の部分につきまして助成するというので、今までの、例えば中学生まで、今現在そのような形で福祉医療ということで助成をしているんですけども、高校生世代まで、入院については拡大するというようなやり方になるかと思います。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

15番久保秀雄君。

15番（久保秀雄君） ちょっと勉強不足で申しわけないんですけども、みなかみ町に利根商業高等学校というのがあろうかと思っています。

そこで今、寮生活をしている生徒がいるかと思っています。

住所はこちらへ持ってきているかどうか、ちょっと確認できていないんですけども、それらの子供たちについてどんな対応をするのかなど。

それと、もう一つは、今、林議員の質問の中で、保険内と、それとその3割と、こういう答弁だったと思いますけれども、それらを含めて、財源的に、それから人数的にどのぐらいを想定しているのかなど。

ぜひお聞かせいただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 久保議員のご質問にお答えいたします。

利根商生の寮、住民になっていれば、住民票を持ってきて住民になれば該当すると思います。住民が対象です。

それから、対象人数なんですけれども、高校生が一応、こちらで国保の、国保しか、ちょっと町の状況わからないものですから、国保から推計したところ、入院人数の見込みが一応20人程度、それで入院費が460万円程度を見込んでおりまして、その個人負担分3割ということで139万9,310円、また入院に係る食事代がありますので、それが

8万4,367円ということで、一応こちらの推計といたしましては、30年度、新制度に移りまして入院分、148万3,677円というような形で推計をしております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第7号の質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

議案第7号、みなかみ町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例については、所管の常任委員会に付託したいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第7号、みなかみ町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例については、所管の常任委員会に付託することに決定しました。

日程第15 議案第8号 みなかみ町福祉作業所条例を廃止する条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第15、議案第8号、みなかみ町福祉作業所条例を廃止する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第8号についてご説明申し上げます。

みなかみ町が実施主体となる社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会に管理及び運営を委託しておりましたみなかみ町福祉作業所びっころは、平成29年10月より社会福祉法人みなかみ町社会福祉協議会が事業者となり、就労継続支援B型事業所の許可を受け、障害福祉サービス事業所びっころとして新たに開所となりました。

このことにより、みなかみ町が実施主体となっておりましたみなかみ町福祉作業所びっころが閉所し、本条例の必要がなくなったため、これを廃止しようとするものであります。

よろしくご審議の上、ご決定いただきますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第8号について質疑はありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 効力が発するのは公布の日というふうな形になっているんですけども、いつを予定しているんですか。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 原澤議員のご質問にお答えいたします。

公布の日につきましては、本日議決をいただければ本日付というような形になるかと思
います。

以上です。

議 長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第8号の質疑を終結いたします。

これより議案第8号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第8号の討論を終結いたします。

議案第8号、みなかみ町福祉作業所条例を廃止する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議 長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第8号、みなかみ町福祉作業所条例を廃止する条例については原案のとおり可決されました。

日程第16 議案第9号 みなかみ町介護保険条例の一部を改正する条例について

議 長（林 喜美雄君） 日程第16、議案第9号、みなかみ町介護保険条例の一部を改正する条例
についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町 長（前田善成君） 議案第9号についてご説明申し上げます。

介護保険の第1号被保険者の保険料につきましては、保険者である市町村が3年ごとに
介護保険事業計画の見直しを図り、保険料に反映させることが介護保険法の中で規定され
ております。

保険料の改定時期に当たり、平成30年度から平成32年度までの各年度における保険
料率を定めたところでありますが、現在の保険料率を据え置きとし、同率とすることから、
期間のみの変更とするものです。

また、地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律による
介護保険法の改正に伴う罰則規定にかかわる対象者の範囲が拡大されたことから、関係条
文を改正するものです。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。
議案第9号について質疑はありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 介護保険については、補正も出ているんですけども、基金に1,900万円積み足すような形になっています。

30年度の予算も出ているんですけども、8,700万円という数字もちょっとあったんですけども、一応、基金は現在どのくらいで、どういうふうに予定しているのか、ちょっと教えてください。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 原澤議員のご質問にお答えいたします。

基金のも、すみません、ちょっと今、手元に細かい資料がないんですが、八千何百万円かの額になっているかと思えます。

それで、今回、補正でも積み増しを予定しているんですが、その基金を取り崩しながら、30年度からの保険料を据え置きとさせていただくような方向で考えております。

以上です。よろしくお願ひします。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第9号の質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

議案第9号、みなかみ町介護保険条例の一部を改正する条例については、所管の常任委員会に付託したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第9号、みなかみ町介護保険条例の一部を改正する条例については、所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

日程第17 議案第10号 みなかみ町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第17、議案第10号、みなかみ町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より、提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第10号についてご説明申し上げます。

高齢者の医療の確保に関する法律の改正に伴い、住所地特例の適用を受けて従前の住所

地の市町村国民健康保険の被保険者とされている者が、75歳到達等により後期高齢者医療に加入した場合には、住所地特例を引き続き従前の住所地の後期高齢者医療広域連合の被保険者とするものです。

よろしくご審議賜り、ご決定いただきますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。
議案第10号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第10号の質疑を終結いたします。
これより議案第10号について討論に入ります。
まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第10号の討論を終結いたします。
議案第10号、みなかみ町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について
を採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第10号、みなかみ町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例
については原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） ここで暫時休憩をいたします。再開を10時40分といたします。

（10時29分 休憩）

（10時40分 再開）

議長（林 喜美雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

- 日程第18 議案第11号 みなかみ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営
に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
議案第12号 みなかみ町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備
及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防
のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を
改正する条例について
議案第13号 みなかみ町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定
介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関
する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議案第14号 みなかみ町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第18、議案第11号、みなかみ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてから議案第14号、みなかみ町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例についてまで、以上4件を一括議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第11号から第14号について一括してご説明申し上げます。

議案第11号、第12号及び13号の3議案について、厚生労働省が定める各基準等が改正されたことに伴い、関係条例の一部を改正するものであります。

まず、議案第11号、みなかみ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について。

主な内容としましては、指定地域密着型サービスに係る各基準を改めるとともに、新たに共生型地域密着型サービスに関する基準を定める等であります。

次に、議案第12号、みなかみ町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について。

主な内容としましては、指定地域密着型介護予防サービスに係る各基準を改める等であります。

次に、議案第13号、みなかみ町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について。

主な内容としましては、事業の運営に当たって連携に努めなければならないものに、障害者総合支援法に規定する指定特定相談支援事業者を加える等であります。

次に、議案第14号、みなかみ町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例についてご説明申し上げます。

これは、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法令の整備等に関する法律による介護保険法の一部改正に伴い、平成30年4月1日から居宅介護支援事業の指定・監督権限が県から市町村に移管されることにより、当該事業の人員及び運営に関する基準を定める必要が生じたことから、制定するものであります。

なお、いずれの議案についても、町の基準を定めるに当たって、法律で各基準の項目ごとに、厚生労働省令で定める基準に伴い定めるもの、標準として定めるもの、基準を参酌するものが示されており、その内容に沿って改正及び制定しようとしております。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第11号について質疑はありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 議案の11号の指定地域密着型サービスの関係の条例の改正なんですけれども、これに新たに共生型地域密着型サービスというのが加わっているんですけれども、この特徴というのをわかりやすく教えていただければと思うんですけれども。

あと、あれですかね、小規模多機能型の施設というのは9人以下というふうに解釈していたんですけれども、この人数はふえるというふうに理解していいんですか。

議長（林喜美雄君） 今、町民福祉課長が調べておりますので、その間、ほかに質問ございますか。

中島信義君。

7番（中島信義君） この議案11号の中に新たな文言として、介護医療院という文言が1つ加えられておりますけれども、この介護医療院、どんな施設か、ちょっと説明いただければと、そのように思います。

また、みなかみでいえば、どこにあるのかというの、もしあったらお願いいたします。

議長（林喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） それでは、すみません、初めに中島議員のご質問、介護医療院なんですけれども、要介護者に対し長期療養のための医療と日常生活上の世話、介護を一体的に提供するというので、30年度から新しく制度改正により設定されるような施設になっておりまして、みなかみ町ではまだございません。

以上です。

それから、よろしいですか。

議長（林喜美雄君） どうぞ。

町民福祉課長（内田 保君） そうすれば、原澤議員のご質問にお答えいたします。

共生型地域密着型サービスといいますのは、高齢者と障害者が同一の事業所でサービスを受けやすくするため、介護保険と障害福祉、両方の制度に新たに位置づけるサービスということで、今までですと制度的に介護保険と障害者の施設が区切られていたような形になっているんですけれども、共生型というような形で、両方が受けやすくなるような、これも制度改正による新しい関係でございます。

それから、小規模多機能につきましては、定員は変わらないです。

議長（林喜美雄君） ほかにありませんか。

6番林誠行君。

6番（林 誠行君） 先ほどの中島議員の質問の中で介護医療院なんですけれども、今まで介護だと介護、医療だと医療と別であったんですけれども、そうすると、介護に入っているも医療的なものが受けられるような形になるのでしょうか。

議長（林喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 新たな介護施設の創設ということで、30年度、制度改正に伴いまし

て介護医療院というような名称の施設ができるわけなんですけれども、例えば病院や診療所から新施設に転換するというような形になっておりますので、介護医療院としての指定を受けるような形で、要介護者に対しまして長期療養のための医療と日常生活上の世話を一体的に提供するというような形で、介護保険法上では介護保険施設として、医療法上では医療提供施設として法的に位置づけるというようなことになっております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第11号の質疑を終結いたします。

次に、議案第12号について質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第12号の質疑を終結いたします。

次に、議案第13号について質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第13号の質疑を終結いたします。

次に、議案第14号について質疑はありますか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 第14号の指定居宅介護支援の条例なんですけれども、今まで県が運営したのを町に移管する理由というのはどういうことなのかということと、内容が変更されるのかということと、それから予算措置はあるのかということと、ここは県に移しますよ、これは町に移しますよみたいな矛盾というのはないのか、教えてください。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 居宅介護支援事業所、これは介護保険でいう、ケアマネ事業所とかよく言っているんですけれども、介護サービスの計画を立てる事業所のことでございまして、移った理由の一つとしましては、より介護利用者に身近なところが指定するのがいいのではないかというような形で、保険者である市町村に移譲されるというのが理由の一つとなっております。

あと、すみません、原澤議員、どのような質問だったですか。

13番（原澤良輝君） 県が運営していたときと町が運営していたときで内容は変更されるのかどうかということ。

町民福祉課長（内田 保君） 中身は変わりません。ただ、市町村が今度指定するようになりますので、指導監査とかその辺が市町村に。市町村が指定になりますので、今度は勧告や命令、指定の取り消しとか、いろいろなそういう処分との関係が町に移ってくるということでございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） まだ、予算とかはというのでちょっとあれなんですけれども。聞いたんです

けれども。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 予算措置としては特に、職員が指定の申請を受けて、そういう事務手続上になりますので、システムの中で、システム改修が、県が今まで、指定に係るシステムを取り入れるのは、もう既に入っているような状況でございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第14号の質疑を終結いたします。

議長（林 喜美雄君） これより議案第11号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第11号の討論を終結いたします。

議案第11号、みなかみ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第11号、みなかみ町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） これより議案第12号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第12号の討論を終結いたします。

議案第12号、みなかみ町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第12号、みなかみ町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） これより議案第13号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第13号の討論を終結いたします。

議案第13号、みなかみ町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第13号、みなかみ町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） これより議案第14号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第14号の討論を終結いたします。

議案第14号、みなかみ町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第14号、みなかみ町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例については、原案のとおり可決されました。

日程第19 議案第15号 みなかみ町工場立地法に基づく地域準則条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第19、議案第15号、みなかみ町工場立地法に基づく地域準則条例についてを議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第15号につきましてご説明申し上げます。

工場を設置する場合、緑地及び環境施設について、敷地面積に対する割合を国が定めておりますが、自治体の裁量の範囲内で設定することができ、みなかみ町においても、政所地区、真庭地区、矢瀬蟹杵工業団地、栃原農工団地、須川平農工団地について適用しております。

しかし、根拠法令である企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律の改正が行われたことにより、現条例を廃止し、引用法令を工場立地法第4条の2第1項の規定に変えて、新規に制定するものです。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第15号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第15号の質疑を終結いたします。

これより議案第15号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第15号の討論を終結いたします。

議案第15号、みなかみ町工場立地法に基づく地域準則条例についてを採決いたします。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第15号、みなかみ町工場立地法に基づく地域準則条例については、原案のとおり可決されました。

日程第20 議案第16号 みなかみ町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例について

議長（林 喜美雄君） 日程第20、議案第16号、みなかみ町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

(町長 前田善成君登壇)

町長(前田善成君) 議案第16号につきましてご説明申し上げます。

まず、第2条第1号と重複する第2条第2号中における平成24年みなかみ町条例第23号を削除するものです。

次に、群馬県産業建設部の指導により、第5条第1項第2号中の「設備資金」の次に「(土地を除く)」を加えるものです。

3点目として、群馬県では、中小企業への支援策並びに小口資金に関する返済負担の軽減策として、平成21年12月から実施している借りかえ要件緩和の特例措置について、平成15年度から実施している売り上げ減少等の要件を満たす場合の借りかえ制度について引き続き実施することから、附則第3項中の平成30年3月31日を平成31年3月31日に改めるものです。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長(林喜美雄君) 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。議案第16号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) ありませんので、これにて議案第16号の質疑を終結いたします。これより議案第16号について討論に入ります。まず、反対討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) 次に、賛成討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) ありませんので、これにて議案第16号の討論を終結いたします。議案第16号、みなかみ町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(林喜美雄君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第16号、みなかみ町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

-
- 日程第21 議案第17号 指定管理者の指定について(みなかみ町通所介護事業所 デイサービスセンターほたるの苑)
議案第18号 指定管理者の指定について(みなかみ町通所介護事業所 水上デイサービスセンター)
議案第19号 指定管理者の指定について(みなかみ町通所介護事業所 新治ふれあいセンター)
議案第20号 指定管理者の指定について(みなかみ町福祉センター)

議案第21号 指定管理者の指定について（みなかみ町真沢ファーム交流施設）

議長（林 喜美雄君） 日程第21、議案第17号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 デイサービスセンターほたるの苑）についてから議案第21号、指定管理者の指定について（みなかみ町真沢ファーム交流施設）についてまで、以上5件を一括議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第17号から21号まで一括してご説明申し上げます。

本年度において指定管理期間が満了する13施設のうち、12月定例会において議決いただいた8施設を除く残り5施設について上程させていただきます。

この5施設の内訳は、デイサービスセンターほたるの苑、水上デイサービスセンター、新治ふれあいセンター、福祉センター、真沢ファーム交流施設であり、昨年12月16日から1月22日まで公募を行い、1月31日にみなかみ町公の施設指定管理者選定委員会において選考を行い、答申をいただきました。

デイサービスセンターほたるの苑、水上デイサービスセンター、新治ふれあいセンター及び福祉センターについては、みなかみ町社会福祉協議会1者のみの応募でありました。

みなかみ町社会福祉協議会につきましては、現在の指定管理者であり、実績も良好であると伺っています。

真沢ファーム交流施設につきましては、株式会社ピーエイ、株式会社月夜野振興公社、一般社団法人みなかみ町体験旅行の3者の応募がありました。

選定された株式会社ピーエイは、東京証券取引所二部に上場され、広告宣伝事業を中心に展開している会社であり、ウェブを媒体としたマーケティングの強みを持ち、既に沖縄などで宿泊施設を運営している実績を有しています。また、震災直後から福島県と連携し、農業の6次産業化や企業支援などの地域活性化事業を行い、日本一規制の厳しい京都市において常設バザールの運営を行うなどの実績もあります。

いずれの施設についても、指定期間につきましては、平成30年4月1日から3年間となっております。

以上、一括してご説明申し上げます。よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

議案第17号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第17号の質疑を終結いたします。

次に、議案第18号について質疑はありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 18号の水上デイサービスセンターなんですけれども、前回の期間中に食中

毒の問題を起こしたというふうにいるんですけれども、これの責任とか、そういう措置はどうなったか、教えてください。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） 昨年、食中毒事件がございました。全協でも経過なり結果を報告させていただいているんですけれども、全員が重病になることなく、入院はされていたんですけれども、退院されており、またいろいろな保健所等の指導を受けて研修等を重ねて、二度と起こらないような形で進めていきたいというようなことで社協から報告は受けております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第18号の質疑を終結いたします。

次に、議案第19号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第19号の質疑を終結いたします。

次に、議案第20号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、議案第20号の質疑を終結いたします。

次に、議案第21号について質疑はありませんか。

3番鈴木初夫君。

3番（鈴木初夫君） この真沢の森の経営については、近年、大変厳しい状況が続いているということで聞いております。昨年、特例として500万円の補助金をこの指定管理しております真沢の森のほうに、議会のほうで認めていただいて、補助金として出していると思いません。

既にその前に小口融資を受けているとのことですが、この指定管理がピーエイですか、ここになった場合、前に経営していた月夜野振興公社については、その小口の借入れが既に済んでいるのであればいいんですけれども、もしその借入れがまだ滞っているようであると、今度は誰がその責任をとっていくのかというような問題もありますので、また次のこのピーエイという会社がどういう会社かよくわかりませんが、ここで引き継いでもらえるようであればいいんですけれども、いずれにしても月夜野振興公社というのは、このみなかみ町が80%を出資している会社だと思えます。この処理についてどのように考えているのか、お伺いしたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 観光商工課長。

（観光商工課長 澤浦厚子君登壇）

観光商工課長（澤浦厚子君） 鈴木議員の質問にお答えいたします。

ピーエイという会社に決定をしたわけなんですけれども、運営とか施設管理の関係もありますので、今、ピーエイと公社のほうで、業務提携ができるか、そういった形で協議をして

いるところでございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 鈴木君。

3 番（鈴木初夫君） ということは、まだ協議が調っていないというような話に聞こえたんですけども、そういう理解でよろしいんですか。このままいくと、質問は3回しかできませんので、これでどんどん質問するわけにはいきませんので、その辺をよろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） 観光商工課長。

（観光商工課長 澤浦厚子君登壇）

観光商工課長（澤浦厚子君） お答えいたします。

今、調整をしているところと申し上げましたけれども、継続的にですね、今までの経営のこともありますし、またやはり今度受けるピーエイという会社が地域的なことの、事情についても余りまだ詳しくないということもありますので、従業員のことであったり、そういうことで、提携をしていけるかどうかというところを模索しているところでございます。いい方向で進んでいるというふうに考えております。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、指定管理のほうで上程させていただいています。今のところまだピーエイさんが、ここで議決していただかないと、決まったことにならないので、それが済み次第ある程度の協議に入らないといけないので、その辺のところを加味していただいて判断していただければ。今までやったものについて、ある程度引き継ぎをしていただくような方向で話はさせていただきたいとは考えていますので、よろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

鈴木初夫君。

3 番（鈴木初夫君） まだいろいろ協議が調っていないということは、振興公社そのものがもしこれで終わりになってしまえば、その分の負債というものが町にかかってくるような気がするんですけども、その答えはどうもいただけないようなんですけども。

それとあと、真沢の森を設置したときに、地元協力会というのがありまして、あそこに行く道路ですか、そういうものを、今までは細い道しかなかったのを、道路をつくったり、あと、山野草料理をやっていましたので、地元の山林なり、あとは畑に入って山野草をとった場合も、みんな協力していこうということで話し合いができていたわけなんですけれども、そこで今までは日帰り入浴券、50%割引の券をその協力会のほうに出していたんですけども、今後そういうことも引き継がれていくのかどうかをお聞きしたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 観光商工課長。

（観光商工課長 澤浦厚子君登壇）

観光商工課長（澤浦厚子君） ただいまのご質問の件ですけれども、そういったことも含めて検討に入っているということでもあります。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） さっきのお話の中でもちょっとさせていただいたんですが、そういったもの

も含めて引き継いでいただくように話し合いを持つ場を設定していますので、設定してじゃない、これを決定していただければそういうことになると思いますので、よろしくお願いいたします。

議長（林 喜美雄君） ほかにありますか。

小野章一君。

16番（小野章一君） この指定管理者制度については、公共施設を民間の方々に公募によって、よかれという方に運営をしてもらうということが筋であります。そこに決定された管理者については、責任を負うということが第一前提だというふうに思っております。ただし、先ほどの鈴木議員のことにもありました、前回のときに補正で500万とりました。については、これは当時の町長は特例的にということに認めたわけであります。ただ、一面を見ますと、月夜野振興公社というところの出資が町が80%ということ、その中であります。

今回、株式会社ピーエイというところが指定管理者制度の中で3年間を管理運営していただくわけでありまして、先ほど月夜野振興公社のものは3月31日をもって一区切りという解釈は当然あるわけでありまして、4月1日から新たに指定管理の中でしていただく方がこのピーエイということだというふうに解釈していいのではないかなというふうに思うわけでありまして。

先ほど、あと6カ月残すところで管理運営ができないということで急遽補正をとったわけですが、やはりそれはどういう形であれ、9月の決算のときに新たな問題が生じるのではないかなというものはありますけれども、この関係では、ピーエイがこの審査によって、また町の条例により、仕様書により管理をしていただくということの審査かなというふうに思っております。につきまして、これについては、先ほども申しました公募状況ということが1つ、その責任は、ごめんなさい、先ほどのことは責任として負わなければならないということが前提でありますし、また今の指定管理者制度が今、議案として出されているわけですが、この公募状況を知らせていただきたいということ。

また、この指定管理料については、やはりそれなりに、ピーエイが受けるときに提示されたものはどのぐらいなのかということをお聞きしたいというふうに思っております。

議長（林 喜美雄君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 宮崎育雄君登壇）

総合戦略課長（宮崎育雄君） 指定管理者制度を管轄しておりますので、総合戦略課のほうからお答えさせていただきます。

まず最初の指定管理料の件でございますが、今回の選定に当たっては、指定管理料はお支払いはしないということを前提に選定をしております。

それから、公募状況でございますが、先ほど町長の提案理由の中でもありましたように、3者ございました。株式会社ピーエイ、それから月夜野振興公社、みなかみ体験旅行ということで、3者ございました。

選定委員会の中で、それぞれの項目をつけまして、点数方式で採点をしてまいりました。その結果、1者、みなかみ体験旅行が一番点数が高かったわけですが、その後、

みなかみ体験旅行より辞退届が出されました。ということで、2番目に点数が高かった株式会社ピーエイに決定をされたという経過でございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかに。

小野章一君。

- 16番（小野章一君） ちょっと前後しますけれども、先ほど小口融資の関係、月夜野振興公社については、小口融資の関係と、またこの半年間、500万補正をとってやっていただけたけれども、なおかつ赤字ということもあろうかなというふうにも想像するわけでありましてけれども、先ほど課長が言っておりました、これについてはピーエイが引き継ぐということを協議しているということもちょっと聞かれるわけですがけれども、本来であれば、先ほど私が申しましたように、ここで一区切りということが大前提ということも申しましたけれども、そこら辺のところを改めてお聞きしたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 宮崎育雄君登壇）

総合戦略課長（宮崎育雄君） ただいまの質問にお答えします。

まず、財務的な引き継ぎというのではないということによろしいのかと思います。したがって、借入金の引き継ぎですとか、そういったことが生じるということはないと思います。

ただ、先ほど観光商工課長が申しあげました引き継ぎという意味は、町長のほうからする説明がありましたように、地域の方との連携ですとか、事業内容の継続ですとか、そういった意味において引き継ぎをされていくということで伺っております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありますか。

4番石坂武君。

- 4番（石坂 武君） 指定管理者にピーエイということで今提示があるわけですがけれども、る話が出ておりますけれども、今までの運営状況が大変厳しいという部分については、ある程度ピーエイとして把握をしているところでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 宮崎育雄君登壇）

総合戦略課長（宮崎育雄君） 審査の中でそれぞれの応募者からプレゼンをしていただきました。その中では、ピーエイのプレゼンにおいて、厳しいということは十分認識をしている。ただ、指定管理者としてやっていくだけの価値がそこに認められるということで手を挙げさせていただいたというような説明がございましたので、十分現状を認識している中での応募というふうに捉えております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 石坂武君。

- 4番（石坂 武君） 先ほど町長の話の中で今後詳細については詰めていくんだと、そういう話があったわけですがけれども、話が行って来いになっていると思うんですがけれども、その中には借入金だとか、そういった部分の調整というものは含まないよと、そういうことでしょ

うか。

議長（林 喜美雄君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 宮崎育雄君登壇）

総合戦略課長（宮崎育雄君） お答えします。

繰り返しになるかもしれないんですけども、一応財務の関係においては、別会社でございますので、その引き継ぎというのは生じないということが原則だと思います。ですから、月夜野振興公社の借入金をそのまま引き継ぐとか、そういうことはないということでございます。

議長（林 喜美雄君） 石坂武君。

4 番（石坂 武君） そうしますと、融資に係る残金の処理が気になるところなんですけれども、その辺はどう考えていますか。

議長（林 喜美雄君） 総合戦略課長。

（総合戦略課長 宮崎育雄君登壇）

総合戦略課長（宮崎育雄君） ただいまの質問にお答えします。

月夜野振興公社の今後の扱いについては、この後、先ほど町長が申し上げましたように、ピーエイとの連携をどういった形でやっていくかということについて協議をしていくことになると思います。その中で、ランドオペレーションを受け持つとか、そういったことも多分出てくるんだと思います。そこで業務が継続できるようであれば、今のままの状態ですべて業務を執行していくと。その業務の中から借入金については返済していくというような形になるんだと思います。それについて詳細な調整をさせていただくということでございます。

議長（林 喜美雄君） ほかにありますか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第21号の質疑を終結いたします。

議長（林 喜美雄君） これより議案第17号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第17号の討論を終結いたします。

議案第17号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 デイサービスセンターほたるの苑）についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第17号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 デイサービスセンターほたるの苑）については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） これより議案第18号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第18号の討論を終結いたします。

議案第18号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 水上デイサービスセンター）についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第18号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 水上デイサービスセンター）については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） 次に、議案第19号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第19号の討論を終結いたします。

議案第19号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 新治ふれあいセンター）についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第19号、指定管理者の指定について（みなかみ町通所介護事業所 新治ふれあいセンター）については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） これより議案第20号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第20号の討論を終結いたします。

議案第20号、指定管理者の指定について（みなかみ町福祉センター）についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第20号、指定管理者の指定について(みなかみ町福祉センター)については、原案のとおり可決されました。

議長(林 喜美雄君) これより議案第21号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) 次に、賛成討論の発言を許します。

(「なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) ありませんので、これにて議案第21号の討論を終結いたします。

議案第21号、指定管理者の指定について(みなかみ町真沢ファーム交流施設)についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長(林 喜美雄君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第21号、指定管理者の指定について(みなかみ町真沢ファーム交流施設)については、原案のとおり可決されました。

日程第22 議案第22号 町道路線廃止について

議案第23号 町道路線認定について

議長(林 喜美雄君) 日程第22、議案第22号、町道路線廃止についてから議案第23号、町道路線認定についてまで、以上2件を一括議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

(町長 前田善成君登壇)

町長(前田善成君) 議案第22号、第23号につきましては関連がございますので、一括して提案理由を申し上げます。

本案につきましては、町内の道路につきまして、現在認定されています町道のうち10路線を廃止し、新たに12路線を認定するものであります。

議案第22号では、町道の改良を理由に4路線、町道の新設を理由に1路線、土地改良事業区域内の道路整備を理由に3路線、その他の理由を合わせまして計10路線、総延長2,714.88メートルを廃止するものであります。

議案第23号では、この廃止路線のうち、起点または終点を変更したものを4路線、路線の組みかえを行ったものを3路線、一部廃道により分割した路線を3路線、計10路線の再認定をするとともに、2路線を新規に認定し、合わせて12路線、総延長2,773.

5 2メートルを認定するものであります。

よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しました。

これより質疑に入ります。

議案第22号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第22号の質疑を終結いたします。

次に、議案第23号について質疑はありませんか。

13番原澤良輝君。

13番（原澤良輝君） 新たに認定される2067-1から3なんですけれども、廃止された2067-7というのとほぼ同じところなんですけれども、これは区画整理か何かをやったようなところなんでしょうか。ちょっと図面が小さくてわからないんですけれども、お願いします。

議長（林 喜美雄君） 地域整備課長。

（地域整備課長 古川文雄君登壇）

地域整備課長（古川文雄君） お答えします。

この新たに認定する3路線、2067-1から3については、廃止のほうで2067を廃止して、一部を外して再認定するものです。

ついている路線網図の7ページの部分なんですけれども、この2067-3と2067-2の間の部分が結果的には廃止になるということです。ここについては、もともと民地だったところを認定していたものです。ここが、開発によるものですが、太陽光発電所ができて、地主からこれについては外してほしいという申し出がありました。

この部分については、ちょっと細かいんですけれども、2070というのがその上にありますので、この路線を通ることができますので、問題がないということで、この部分のみを廃止しているということになります。

以上です。

議長（林 喜美雄君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第23号の質疑を終結いたします。

議長（林 喜美雄君） これより議案第22号について討論に入ります。

まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第22号の討論を終結いたします。

議案第22号、町道路線廃止についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。
よって、議案第22号、町道路線廃止については、原案のとおり可決されました。

議長（林 喜美雄君） 次に、議案第23号について討論に入ります。
まず、反対討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 次に、賛成討論の発言を許します。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第23号の討論を終結いたします。
議案第23号、町道路線認定についてを採決いたします。
本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。
よって、議案第23号、町道路線認定については、原案のとおり可決されました。

日程第23 議案第24号 平成29年度みなかみ町一般会計補正予算（第4号）について
議案第25号 平成29年度みなかみ町介護保険特別会計補正予算（第1号）に
ついて
議案第26号 平成29年度みなかみ町下水道事業特別会計補正予算（第2号）
について

議長（林 喜美雄君） 日程第23、議案第24号、平成29年度みなかみ町一般会計補正予算
（第4号）についてから議案第26号、平成29年度みなかみ町下水道事業特別会計補正
予算（第2号）についてまで、以上3件を一括議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第24号から26号まで一括してご説明申し上げます。

最初に、議案第24号についてご説明申し上げます。

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ7,069万9,000円を追加し、歳入
歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ146億303万4,000円とするものです。

歳出補正の主なものは、2款総務費で、1項総務管理費1億3,534万2,000円の
増額は、ふるさと納税推進事業4,172万円及びふるさと応援基金管理事業9,000万
円が主なものです。

3款民生費では、1項社会福祉費997万6,000円の増額は、障害福祉サービス事
業1,720万4,000円が主なものです。2項児童福祉費1,545万円の減額は、保
育等施設給付事業1,105万円が主なものです。

6款農林水産業費では、1項農業費2,410万円の減額は、小規模農村整備事業1,220万円が主なものです。2項林業費6,525万8,000円の減額は、里地・里山保全整備事業4,764万4,000円及び有害鳥獣侵入防止柵設置事業527万2,000円が主なものです。

8款土木費では、2項道路橋梁費7,825万円の増額は、町道真政線整備事業6,000万円及び道路除排雪事業3,000万円が主なものです。

10款教育費では、4項高等学校費2,000万円の減額は、利根沼田学校組合地方交付税交付事業です。

14款予備費では、1,900万円の増額は、平成29年10月22日施行の衆議院議員選挙等に伴う予備費充当分です。

財源となる歳入補正の主なものは、町税7,000万円の増額は、町民税3,500万円及び固定資産税1,600万円が主なものです。

国庫支出金3,687万9,000円の減額は、社会資本整備総合交付金1,940万2,000円及び防災安全交付金2,384万円が主なものです。

県支出金7,938万2,000円の減額は、ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業補助金4,960万8,000円及び小規模農村整備事業補助金1,283万1,000円が主なものです。

寄附金1億円の増額は、ふるさと寄附金です。

繰入金4,042万円の増額は、財政調整基金繰入金6,157万8,000円が主なものです。

また、平成29年から30年度への繰越明許費は、第2表のとおりであります。関係機関の地元等との調整に不測の日数を要した事業等、年度内に事業が完了できないため、総額で6億5,956万8,000円の繰越明許をお願いするものであります。

以上が一般会計の補正内容であります。

続けて、議案第25号についてご説明申し上げます。

既定の歳入歳出の総額に歳入歳出それぞれ1億1,102万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ26億2,202万8,000円とするものです。

歳出補正の主なものは、2款保険給付費6,500万円の増額は、介護サービス等諸費1億円の増額、介護予防サービス等諸費3,550万円の減額が主なものです。

5款基金積立金1,999万9,000円の増額は、介護給付費準備基金積立金事業です。

7款諸支出金1,500万の増額は、償還金事業です。

財源となる歳入補正の主なものは、繰入金8,570万4,000円、支払基金交付金1,904万円及び国庫支出金1,772万4,000円の増額、繰入金2,150万の減額です。

以上が介護保険特別会計の補正内容であります。

次に、議案第26号についてご説明申し上げます。

既定の歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ6,060万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ8億3,191万4,000円とするものです。

歳出補正の主なものは、2款下水道事業費4,952万2,000円の減額は、下水道費1,360万及び流域下水道費2,932万2,000円が主なものです。

3款公債費1,010万円の減額は、企業債元金及び利子償還金事業です。

財源となる歳入補正の主なものは、町債5,960万円の減額です。

以上が下水道事業特別会計の補正内容であります。

議案第24号から26号まで一括して説明させていただきました。よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了いたしました。

お諮りいたします。

議案第24号、平成29年度みなかみ町一般会計補正予算（第4号）についてから議案第26号、平成29年度みなかみ町下水道事業特別会計補正予算（第2号）についての質疑以降について、後日の本会議において審議したいと思いますと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第24号、平成29年度みなかみ町一般会計補正予算（第4号）についてから議案第26号、平成29年度みなかみ町下水道事業特別会計補正予算（第2号）についての質疑以降については、後日の本会議において審議することに決定いたしました。

-
- 日程第24 議案第27号 平成30年度みなかみ町一般会計予算について
議案第28号 平成30年度みなかみ町国民健康保険特別会計予算について
議案第29号 平成30年度みなかみ町後期高齢者医療特別会計予算について
議案第30号 平成30年度みなかみ町介護保険特別会計予算について
議案第31号 平成30年度みなかみ町下水道事業特別会計予算について
議案第32号 平成30年度みなかみ町水道事業会計予算について

議長（林 喜美雄君） 日程第24、議案第27号、平成30年度みなかみ町一般会計予算についてから議案第32号、平成30年度みなかみ町水道事業会計予算についてまで、以上6件を一括議題といたします。

町長より提案理由の説明を求めます。

町長前田善成君。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 議案第27号から32号まで一括して説明申し上げます。

議案第27号から順次説明させていただきます。

一般会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ138億6,000万円と決めました。前年度比2%の減であります。

歳出の主な内容を申し上げますと、1款議会費1億4,949万3,000円は、議員報

酬、地方議会議員共済会負担金等であります。

2款総務費20億8,635万円は、総務管理費が18億1,926万9,000円で、主な内訳は、職員人件費等の一般管理費8億1,889万9,000円、企画費2億9,447万円及び地域振興費2億8,237万8,000円であります。また、そのほかの主なものは、徴税費1億7,545万2,000円及び戸籍住民基本台帳費5,870万7,000円であります。

3款民生費26億1,283万円は、社会福祉費が17億4,430万4,000円で、主なものは、障害者福祉費4億7,427万円、介護保険費4億313万円及び後期高齢者医療費4億505万円であります。また、児童福祉費8億6,848万7,000円は、児童手当費等の児童措置費2億2,778万2,000円及び保育等施設費5億525万円などがあります。

4款衛生費12億8,818万4,000円は、保健衛生費4億9,079万円及び清掃費6億2,376万7,000円などがあります。

5款労働費1,610万6,000円は、主に勤労者生活資金融資の貸付金であります。

6款農林水産業費8億638万7,000円は、農業費が6億5,632万9,000円で、主なものは、農業振興費1億3,934万4,000円及び農地費3億577万1,000円です。

7款商工費5億1,805万2,000円は、観光費が4億3,760万4,000円で、観光振興事業等の観光総務費2億2,869万6,000円及び観光施設費8,948万4,000円などがあります。

8款土木費21億1,381万3,000円は、道路橋梁費が10億4,668万7,000円で、道路維持費1億9,560万5,000円、道路新設改良費1億909万5,000円、橋梁維持費2億1,108万4,000円及び除雪費2億7,890万9,000円などがあります。都市計画費5億394万2,000円では、主なものは、公共下水道費4億966万3,000円です。住宅費5億3,209万円では、住宅・建築物安全ストック形成費等の住宅管理費であります。

9款消防費6億115万7,000円は、利根沼田広域消防費の常備消防費3億6,257万円が主なものであります。

10款教育費14億892万9,000円は、小中学校トイレ改修事業等の教育総務費2億9,368万3,000円、利根沼田学校組合教育施設整備費補助金事業の高等学校費4億9,202万4,000円、社会教育費1億3,950万8,000円及び学校教育費2億3,759万6,000円が主なものです。

12款公債費22億559万3,000円は、町債の元利償還金及び一時借入金利子であります。

13款諸支出金302万6,000円の主なものは、土地開発公社に対する補助金等であります。

次に、財源となる歳入の主なものは、町税33億9,500万円、地方消費税交付金3億4,000万円、地方交付税46億円、国庫支出金8億9,138万3,000円、県支

出金8億3,595万9,000円、繰入金14億7,700万円及び町債12億2,510万円であります。なお、地方交付税等の依存財源につきましては、国の地財対策等を参考として、また町税等の自主財源につきましては、過去の実績や最近の傾向等に基づき算出いたしました。

債務負担行為につきましては、第2表のとおりであります。施設の指定管理等について、平成31年度以降の債務負担行為の設定をお願いするものであります。

また、地方債であります。第3表のとおり、総額は12億2,510万円です。臨財債4億5,000万円、過疎債6億6,170万円及び合併特例債1億1,340万円であります。

以上が一般会計の概要であります。

次に、議案第28号についてご説明申し上げます。

国民健康保険特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ25億100万円と定めました。前年度比22.8%の減であります。制度改正による広域化に伴い、歳入及び歳出の科目変更を行いました。

歳出の主なものは、2款保険給付費17億7,060万7,000円は、療養諸費15億2,881万8,000円及び高額療養費2億2,878万1,000円などであります。

3款国民健康保険事業納付金6億5,650万円は、医療給付金分4億5,600万円及び後期高齢者支援金等分1億4,550万円などであります。

財源となる歳入の主なものは、国民健康保険税4億8,048万6,000円、県支出金17億6,763万9,000円及び繰入金2億3,018万5,000円であります。

以上が国民健康保険特別会計の概要であります。

次に、議案第29号についてご説明申し上げます。

後期高齢者医療特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億8,700万円と定めました。前年度比6.3%の増であります。

歳出の主なものは、1款総務費750万6,000円は、総務管理費145万1,000円及び徴収費605万5,000円であります。

2款後期高齢者医療広域連合納付金2億6,019万3,000円は、保険料及び事務費等負担金であります。

4款保健事業費863万2,000円は、健康診査事業であります。

財源となる歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料1億6,260万6,000円及び繰入金1億464万円あります。

以上が後期高齢者医療特別会計の概要であります。

次に、議案第30号につきましてご説明申し上げます。

介護保険特別会計の歳入歳出の総額を歳入歳出それぞれ25億7,500万円と定めました。前年度比2.5%の増であります。

歳出の主なものは、1款総務費3,071万7,000円は、総務管理費534万1,000円、徴収費356万8,000円及び介護認定審査費2,161万2,000円あります。

2款保険給付費23億5,000万円は、介護サービス等諸費20億9,620万円、介護予防サービス等諸費9,071万円、高額介護サービス等費4,888万円及び特定入居者介護サービス等費1億363万5,000円が主なものであります。

3款地域支援事業費1億5,670万7,000円は、介護予防事業費1億24万7,000円及び包括的支援事業費5,164万8,000円などであります。

財源となる歳入の主なものは、介護保険料4億7,630万円、国庫支出金6億3,750万1,000円、支払基金交付金6億6,157万1,000円、県支出金3億7,397万5,000円及び繰入金4億52万9,000円であります。

以上が介護保険特別会計の概要であります。

次に、議案第31号についてご説明申し上げます。

下水道事業特別会計の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ9億円と決めました。前年度比0.1%の増であります。

歳出の主なものは、2款下水道事業費3億8,528万7,000円は、公共下水道費9,155万8,000円、特定環境保全公共下水道費1億1,676万5,000円及び流域下水道費1億6,961万8,000円などであります。

3款公債費4億4,900万円は、長期債償還元金及び利子であります。

財源となる歳入の主なものは、使用料及び手数料2億5,308万5,000円、繰入金4億966万3,000円及び町債1億8,460万円であります。

以上が下水道事業特別会計の概要であります。

次に、議案第32号についてご説明申し上げます。

水道事業会計の収益的収入では、上水道事業収益4億1,700万円の主なものは、水道料金及び一般会計補助金であります。

収益的支出では、上水道事業費用3億9,900万円の主なものは、営業費用の動力費、職員人件費及び減価償却費となっており、営業外費用では企業債利息であります。

資本的収入では、上水道事業資本的収入3億5,400万円は、企業債1億1,340万円、国・県補助金7,560万円、補助金5,116万2,000円及び出資金1億1,340万円などあります。

資本的支出では、上水道事業資本的支出4億5,300万円は、建設改良費3億3,667万4,000円及び企業債償還元金1億1,632万6,000円あります。

猿ヶ京浄水建設工事の継続費につきましては、継続費に関する調書のとおりであります。

以上が水道会計の概要であります。

議案第27号から32号まで一括して説明させていただきました。よろしくご審議の上、ご議決賜りますようお願い申し上げます。

議長（林 喜美雄君） 町長の提案理由の説明が終了しましたので、これより質疑に入ります。

なお、質疑につきましては、後日、連合審査会が設けてありますので、詳細につきましてはそちらでお願いをいたします。ここでは大枠のところの質疑とさせていただきます。

まず、議案第27号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第27号の質疑を終結いたします。
次に、議案第28号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第28号の質疑を終結いたします。
次に、議案第29号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第29号の質疑を終結いたします。
次に、議案第30号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第30号の質疑を終結いたします。
続いて、議案第31号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第31号の質疑を終結いたします。
次に、議案第32号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ありませんので、これにて議案第32号の質疑を終結いたします。
お諮りいたします。

議案第27号、平成30年度みなかみ町一般会計予算についてから議案第32号、平成30年度みなかみ町水道事業会計予算についてまで、以上6件について、質疑以降については、委員会議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

議長（林 喜美雄君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第27号、平成30年度みなかみ町一般会計予算についてから議案第32号、平成30年度みなかみ町水道事業会計予算についてまで、以上6件について、質疑以降については、委員会議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

ここで暫時休憩といたします。再開を午後1時といたします。

（12時05分 休憩）

（13時00分 再開）

議長（林 喜美雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

日程第25 一般質問

- 通告順序1 4番 石坂 武
1. 防災無線の全地域設置に向けて
 2. 町内各施設トレーニング器具の有効活用

議長（林 喜美雄君） 日程第25、一般質問を行います。

一般質問については、9名の議員より通告がありました。

本日は、4名の方の質問を順次許可いたします。

まず、4番石坂武君の質問を許可いたします。

石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 4番、石坂、議長の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

本日につきましては2問質問させていただきます。

初めに、防災無線の全地域設置に向けてということで、これについては町長の公約の一つでもあり、前町長に対して私自身も既に機会あるたびに質問もしている状況であります。

所管の総務文教常任委員会においても調査研究をしているところです。昨年12月の定例議会のときにも常任委員長よりその必要性について報告がされています。

水上地区においては既にオフトークサービスが終了し、スマホ、携帯を除き、現状、サイレンによる伝達に頼っている状況であります。月夜野地区、新治地区における現状のサービスも、数年後には終了するというようになっております。

なお、通告の時点では30年度予算に計上されるかわかりませんでした。9款消防費の項、防災無線整備事業調査設計業務委託料として予算計上されているようです。安心をした部分であります。

災害時における緊急避難等においても、各種情報提供等においても、喫緊の課題として運用開始まで継続して取り組むべきと考えておりますけれども、まず、町長の見解を伺います。

議長（林 喜美雄君） 町長。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 石坂議員の質問にお答えします。

石坂議員の指摘のとおり、災害等の緊急時における情報提供は重要な課題の一つと捉えています。また、町内で情報伝達の手段が異なっていることも課題であると認識しています。

議会総務文教常任委員会でも調査研究を重ねられ、12月の議会定例会において報告ございました。細部にわたりご検討いただいたことがうかがえる内容であり、多様なシステムについて、メリット、デメリットに至るまで調査研究いただき、事業を進める上で大変参考になるものです。担当部局においても同様の認識で一致しており、平成30年度予算に、今、議員がご指摘のように調査費を計上させていただいています。

石坂議員もご承知のとおり、水上地域におきましては、新しく情報伝達手段を導入することになるため、月夜野、新治と比べ、より周到な調査が必要であると考えております。

広い地域をカバーする必要があるため、ほかの自治体に比べコスト増になることは否めません。既存のアナログ防災無線の運用が平成34年11月で終了することも示されてお

り、町民の安心安全を図る上からも、必要な事業として進めていかなければいけないと考えております。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） この後、質問の趣旨、内容からして重複する質問ということがたびたびあるかもしれませんけれども、あらかじめ了解をいただきたいと思います。

なお、同じように12月の定例議会時にも総務文教常任委員長より報告がされました。

工事完了までに約4年間が必要であるという旨の報告がされております。既に予算手当て、措置に向けては、めどが立っているというような話もちちらとしては聞き及んでいるところでありますけれども、まず30年度に調査設計業務委託料の予算計上がされるということであるとすると、31年度以降も引き続き予算計上し、33年度中、すなわち4年間で完了をさせるという考え方でよろしいかお伺いします。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、石坂議員のご指摘のところなんですけど、とりあえず今、調査費ということにつけさせてもらっています。というのは、議会の定例会でも発表がありましたように、メリット、デメリット、今、検討されている60メガヘルツ同報系、あと、260メガヘルツ移動系同報利用、280メガヘルツポケベル波がある。またあと、防災用のアプリケーションの活用、この4つの事業について検討しているわけですから、これについて、まだ調査をする段階だと。この種類によって設置ができる、金額もそうですが、施工するスピードだとか、設置するスピードだとかが全部異なってきます。そのいいところ、悪いところというところで、どれがいいかということをもとに精査することから始めるということで今回調査費をつけさせていただいていますので、そのデメリット、メリットについてはここで話ししてもいいんですけども、恐らくそれについては大丈夫だと思いますんで、そういう形で、今、検討させていただいて、調査を始めたところなので、そのところはご理解いただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 4年間で継続して実施するかという回答を次の質問とあわせてお答えいただきたいのと、次に、総務文教常任委員会にて兵庫県佐用郡佐用町、それと川場村、渋川市の視察を実施して、その内容の説明や伝達方法についての説明、報告がされております。

先ほど、町長、町としてそれらを参考にして取り組むつもりでいるということで確認をしておりますけれども、ここでメリット、デメリットにちょっと触れさせていただきましても、具体的に言うと、さっき町長、若干触れておりましたけれども、60メガヘルツ同報系、260メガヘルツ移動系同報利用、それと280メガヘルツポケベル波利用の3つプラスもう一つあるよという、そういう話をされておりましたけれども、現段階では、どの伝達方法を採用するというか、最有力ですというようなことがまずあるかないか。あるいは、それとは別に独自の方法も考えられるのかどうか。その辺の考え方を教えていただきたいのと、メリット、デメリットについて、それぞれの方法の中であると思います。

れども、具体的にその辺を説明していただければと思います。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、具体的にどの方法がいいかということで検討を進めているものというのはありません。これ横並びでもともと考えていますし、もともとはアプリケーションを使ったものというのが、まずこの総務文教常任委員会のほうからの調査研究の報告が上がるまでは町としては主体として考えていた方法ではないかと考えていますが、それだといろいろ問題が起きてくるということもありますので、今、この60メガヘルツ同報系、260メガヘルツ移動系同報利用、280メガヘルツポケベル波というものを横並びで考えています。

でも、この防災無線のメリット、デメリットについては、いずれも屋外、屋内、指定エリアに分けて伝達が可能であること、また、一括操作で無線とメールが配信できること、それとあと、今これが一番大事だと思うんですけどもJアラートと連動できること、それとあとは、音声合成による放送ができる、人間の声によって呼びかけができる、そういうことが挙げられます。ただ、デメリットとしては、荒天時に屋外放送で通行中の車両の中では聞き取りにくいというようなことが挙げられると思っています。

個別に言うと、60メガヘルツ同報系では1回当たりの通信時間に制限がないこと、戸別受信機に文字情報が伝達できることがメリットとして挙げられます。また、デメリットとして挙げられるのは、戸別受信機が他のものと比較して高価である。また、移動系無線との一体運用ができないということが問題として挙げられています。

また、260メガヘルツ移動系同報利用については、移動系無線と一体運用が可能であること、また、戸別の受信機が安価であることということがメリットとして挙げられます。デメリットとしては、1回当たりの通信時間が最大で5分しかもたないということと、あと、戸別受信機へ文字情報が送れないということが挙げられると思います。

また、280メガヘルツポケベル波では、これは電波が強いから難聴地域というのがつくりにくいということがメリットで挙げられますし、戸別受信機を含め整備費が割と安いということが挙げられます。また、戸別受信機に文字情報が伝達できるということもメリットとして挙げられます。ただ、デメリットとしては、ポケベル波ということで、これは免許を持っている業者が1社しかありません。なので、このランニングコストだとか、そういうものにこの企業の考え方ということで左右されてしまうということが大きなデメリットの点。またあと、システムダウンしたときに運用ができない、そういうおそれがあると。また、移動系の無線と一体運用ができないということが挙げられると思います。

あと、スマートフォンの活用については、近年すごい機能はかなりよくなっていますので、この辺については積極的に入れていったほうがいろんな意味でコストも安くなるし、通信手段としてはいいものになっていくんじゃないかなというふうに思っています。

また、今、防災メールの登録者がうちの町では大体4,500件、今登録されています。この辺のところをもっと密に伝達できるようなシステムをつくっていくことによって、この防災無線との総合利用によって、もっと高い安全安心を提供できるような、そういうシステムになっていくんじゃないかなと思われるので、また、今、研究、また、調査して

いる段階なので、逆に議員のほうからもこういうもんがあるよ、こんなものがないんじゃないのというような提案がありましたら、そういったものもしていただけると、今ありがたいというような状態です。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 一番大事な部分で、4年間の中で実施をするという考え方でよろしいですか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、一番最初にお話をさせていただきましたが、このシステムによって一長一短があって、採用によっては4年間というような中ではちょっとできないという部分も見受けられます。

工事費で一番かかるものは十何億かかってしまうということもありますので、それを見据えた中でどれがいいか、どのシステムがこの町に合っているか、また、費用対効果の部分も十分検討していかなくちゃいけないと思っていますんで、その辺について、今、お話しさせていただくように、この中でどれがいいかということは今精査している段階ですから、逆に期限を切って何か物事をするということになってしまうと、うちの町にとって一番いいシステムだとか、一番いい方法じゃなくなってしまう可能性もあります。そういったものを加味しながら調査していくということが、今、現段階で議員に対してお答えできる精いっぱい回答だと思っています。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） その辺を十分に精査していただいて、お願いするほうの立場としては、期間が短いほうがいいので、その辺は十分にお願ひしたいと思います。

また、これも総務文教常任委員会にて、戸別受信機の限定配付等の検討の必要性についても触れていますけれども、当然先ほども話出ていますけれども、この部分の考え方についても前向きに取り組んでいくと、そういうことでよろしいですよ。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、石坂議員がおっしゃられるように、実際には防災システムですから、早きや早いほうがいいに決まっています、どんな天災が起きるかわからない、どんな災害が起きるかわからないですから、それを含めた中で早目に、できるだけ早くこういったものの採用を決めていきたいというのは本心にあります。

ただ、できることとできないことと、いいもの、また、どのものがいいかという精査していくということも行政には必要なプロセスですから、それについて十分検討させていただき、また、議会の皆さんにもおつなぎしながら、どのものがいいか、どんなものができるかというような話はさせていただきたいと思っています。

その中で、今、議員がおっしゃられるようなことも含めて、検討を始めていきたいと思っていますので、その辺のところはご容赦、ご了解いただきましてよろしくお願ひしたいと思っていますんで、その辺のところでも回答とさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 要はまだ煮詰められていない部分が多々ありますよと、そういうことだと思うんですけども、実施に向けては多額な経費が伴うわけですから、十分に精査ということとは必要だろうと私どもも思っております。

町民皆さんの、事業を展開するに当たっては、意見だとかも聞く必要があるのかなと、そういうふうに思います。町民に向けてのそういった意見を聴取したりということも今後当然出てくるということによろしいですか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） そういうこともあります。今、皆さんがこういう形で議会にお越しいただいています。皆さんは町民の代表ですから、皆さんの答え、考え方、また、そういうものを聞くことによって、まず最初にどういったニーズがあるか、どんな地域的な要望があるか、そういうものをまず検討させていただくと。その中で、いろんな意見を上げていかなくちゃいけない、聞かなくちゃいけないという地区も、地形的なものとか、そういうことを考慮すれば出てくると思います。特に水上地区のほうについては難聴地区が起きたり、いろんなものが起きていますので、そういった可能性があるところについては、住民の皆さんの意見を聞いて、それに対応しなければいけないということは十分考えられることだと思っておりますので、その辺については考えていきたいと思っておりますが、とりあえず、今、議員にお話ししているように、まず、議員の皆さんから広く意見をいただいた中で反映できるものをまず反映していくというところから検討、また調査を始めていきたいと思っておりますので、その辺のところはご理解いただきたいと思っております。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） これから何点か、関連の事項ということで質問をさせていただきます。

これ、先ほど4,500件メールの登録というようなことでありましたけれども、スマホ、携帯に入る非常時の伝達について、全く異なった内容で入ってくる事例が多々あります。

例えば、大穴の町営住宅付近の火災なのか、鹿野沢の町営住宅付近の火災なのかかわからなかったことがあったり、私の地元である小日向地区の建物火災の通報においても、スマホに入ってきた内容が小林商店付近で火災というものでしたけれども、小林商店は現在存在せず、存在するのは小林豆腐店さんと既に閉店をしている小林八百屋さん。それで、実際の火災は、これも現在はお店を閉めているシゲトミ八百屋さん。そういう錯綜した内容の情報が入ってくることが多々あります。

初期の情報通報の受け取る場所が「たかさき消防共同指令センター」ということで、一括受けるという状況の中で、土地勘のない人が受けるというようなことで、そういったことがあるということなのかと、それと、それに対しての解決策というものが頭の中にあるでしたらその辺も含めて回答をお願いします。

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

(総務課長 原澤志利君登壇)

総務課長(原澤志利君) すみません、私のほうで指令センターについてちょっとお答えをさせていただきます。

高崎の共同指令センター、こちらについては27年の10月から運用を開始されているということでございます。

先ほど、石坂議員おっしゃったとおり、当然各消防本部から何名かそちらに出向という形をとって業務に当たっているということでございますので、確かに議員がおっしゃるとおり、利根沼田からの出向者がその情報を受けるということは当然限定されていないということでございます。

近年、住民でない方、通行者、こういった方からの通報が非常に多いと。そうすると、やはり土地勘がないということもあって、固定電話ですと指令センターでピンポイントでどこというのがわかるそうなんですけれども、携帯電話等で通報されたときに、たまたまその方がGPSの機能を運用しているとピンポイントでわかるそうなんですけれども、そうでないと基地局ぐらいしかわからないと。その中で、どの辺だよという通報があると、指令センターの地図情報で近くの目標物を検索するようなシステムになっているそうです。その目標物が、例えば、登録されてあるのが古い情報だと、その古い情報で当然皆さんに伝達されてしまうというようなこともあるので、なるべくそういったクレーム、クレームというか、指摘があったときには順次センターのほうでも改良は重ねているんですけども、まだ全てに行き届いていないというようなのが現状であるというふうに聞いております。

以上でございます。

議長(林喜美雄君) 石坂君。

(4番 石坂 武君登壇)

4番(石坂 武君) 以前、中島議員が前町長に対して質問した内容と重なる部分なんですけれども、電柱番号検索ナビの活用についてですけれども、先ほど話がありましたこれについてはピンポイントで場所が検索でき、迅速に現場に行けるというものです。

神奈川県大和市消防本部にて、昨年、全国初の取り組みを始めております。現地到着時間等大幅に改善されたとの報道も既になされており、この部分について関心も高く、ほかにも追随する動きがあるようです。

さきの質問のときには余り明確な回答がなかったと承知しておりますけれども、その点、今後に向けてどう捉えるか、検討の余地があるかを含めてお伺いします。

議長(林喜美雄君) 町長。

町長(前田善成君) 今さっき、石坂議員のほうで、頭の中になんていうお話があったと思うんですが、前と違って、消防の法律自体が変わっちゃいまして、消防車の台数でその指令の範囲というのが変わっています。そのおかげで沼田のほうから指令が出られない、高崎から指令を出すというような形になっていますので、その辺について、今、広域圏の消防とそういうことができるかどうか、そういうものを含めながらお話をさせていただくのが賢明かなと。

法律が変わったところを、今、例えば、できますよという話はちょっとしにくいし、で

きない話だと思っていますので、その辺のところを勘案しながら、逆に広域消防のほうと話をすることがありますので、その辺について、今、お話をいただいたところの先行事例、先例、その辺のところをお話しさせていただいて、こういうことがあると、うちの町ではこういう誤報があったものが少なくなる可能性があるかと、そういったところのお話をさせてもらうことから始める、そういうふうを考えていますので、その辺のところはご承知いただければと思います。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 次に、これも同様に中島議員が既に質問している内容です。

当時、質問時においては同様に明確な回答がなかったわけですが、昨年、片品村において、ドローンを消防団に災害支援等で活用するために配備をしました。林野火災や山岳遭難の迅速な状況確認などに活用するとともに、消防団員の負担軽減も期待しての配備ということで聞いております。

片品村さんとは地形的にも類似をしている当町において、検討の余地があるのではないかと思うわけですが、その辺の見解を伺います。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、石坂議員がお話しするようなお話というのが、実は消防団のほうからもやっぱり出ています。

どうしても災害時にどこに何があるか、特に、例えば川の氾濫だとか、そういったときには地上からはわからない部分というのがありますので、上から確認をしたいと。どんなものになっているかというものが確認できればいいというお話も聞いております。

ただ、ドローン自体がなかなか進歩していますので、それを購入していくことがいいのか、それとも、今、ドローン自体を委託して、そういう調査をしていただくという会社も数社やっぱり群馬県内にもあります。県のほうはそういう形で委託をしている方法をとっているようです。

そういうものも研究しながら、どんなものがあるのか、なるべく、買っちゃって使えなくなるというのが一番おかしな話になるでしょうから、活用できるものが何が一番いいのか、そういったものを検討させてもらって、今もお話しさせていただきますが、実際そういうものの必要性というのは感じていますので、調査ということで、真剣に検討させて、調査させていただきたいと思っていますので、その辺のところはご承認いただければと思っています。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） ぜひ、よろしく願います。

防災無線対応に向けては、大変な経費が伴うものであり、稼働時には導入してよかったというものでなければ意味がないと思います。稼働後に、先ほども話出ていました電波が届かないだとか、そういったことでは大問題だと思います。

そういった意味でも、今後の取り組みについて方向性を定めるのは大変重要だと思って

います。

戸別受信機の配付等において、個人負担の問題も当然出てくると思います。前にも触れておりますけれども、町長と語る会等を開催したり、この事業に特化した中での説明会等も開催し、随時町民に周知し、あるいは意見を取り入れ参考に取り組んでいく考え方でよろしいでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、石坂議員がおっしゃったとおりだと思っています。

こういうものについて、逆に費用対効果だけで考えるべきではないと思っていますんで、どうやって住民の方が安全に逃げられるか、また、そういう伝達、情報という一番大事なものを聞く、聞けるとか、自分の中に入れ込むという手段を、何が一番いいかというのを本格的に検証していかなくちゃいけないと思っています。

いざ使ったら使えないというのが、ドローンの話ではないですが、一番やってはいけないことだと思っていますんで、その辺についてしっかり調査、また、研さんしていきたいと思っていますので、その辺のまた入り組んだ地区等が水上地域にはありますので、その辺のところを考慮した形で進めていきたいと答弁、繰り返しの答弁になりますが、そういう考え方でおりますので、その辺のところは理解していただきたいと思います。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 町長の公約の一つの取り組みでもありますので、内容の濃い事業展開にしていただくことと、なるべく早い時期に稼働をしていただくような展開をお願いして、次の質問移ります。

2問目は、町内各所のトレーニング器具の有効活用についてです。

町ではみなかみ町スポーツ健康まちづくり宣言を平成23年12月7日に議決をしております。その後、関連した各種取り組みを実践していることと思いますが、月夜野総合体育館、水上社会体育館、新治のB&G海洋センター等に配置、配備されているトレーニング器具、施設のまず活用状況が気になるところであります。

また、器具そのものも相当古くなり、トレーニング機器でありながら危険を伴うものも相当数あることが確認されます。器具そのものがテーピングや包帯を巻いているという器具もあります。

最近、トレーニング器具を使った体験会等も計画、実施されていることや、安全面からも器具の計画的な入れかえも必要と思われます。今後の有効活用に向けての取り組みについての考え方を含め、お伺いいたします。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） すみません、最初に、1つ目の質問の防災無線のほうなんですけれども、石坂議員がこだわるように、本来34年の11月にアナログ放送ができなくなると。それに間に合わせるように一生懸命考えていくということはもう前提にありますんで、それをどうしても守れない場合も出てきますので、そういうことで期限については考えているということでお答えさせていただきます。

また、今、トレーニング器具につきましてということなのですが、このトレーニング器具につきましては、月夜野総合体育館、水上社会体育館、新治B&G海洋センターの3施設のトレーニングルームが設置されております。

設置状況と現況についてなんですけれども、それぞれの施設ごとの設置状況でございますが、月夜野総合体育館は、筋力系トレーニング器具6台と有酸素系トレーニング器具4台、エクササイズ系器具1台を設置しております。

新治B&G海洋センターは、複数種類の筋力トレーニング器具がセットになっている小型のセット型筋力トレーニング器具が1台と、筋力系トレーニング器具4台、有酸素系トレーニング器具3台、エクササイズ系器具の2台を設置しております。

水上社会体育館は、セット型筋力系トレーニング器具1台のほか、筋力系トレーニング器具4台、有酸素系トレーニング器具3台、エクササイズ系器具1台、その他にダンベル、ベンチプレス、パワーラック、サンドバッグなどを設置しており、町内の3施設の中では最も多くの筋力系メニューが体験できるようになっています。

以上が、町内3カ所の社会体育施設に設置されているトレーニング器具の設置状況であります。新治のB&G海洋センター、水上社会体育館では町村合併以前に購入されたトレーニング器具が多く占めており、その中には既にメーカーが倒産したり、修繕ができなくなったり、トレーニング器具自体が廃盤になって部品の交換ができないような器具もあり、早期に入れかえ等新規導入が望ましい状態にはなっております。

月夜野体育館については、耐震改修工事を完成した後にトレーニング器具を新規導入で入れかえていますので、十分とは言えませんが環境的には整っていると思っております。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 各施設に設置されているトレーニング施設の活用使用状況について、年間の数でも結構ですけれども、各施設ごとに数を教えていただきたいのと、先日たしか体験会の実施があったと思いますけれども、その部分の参加者数もあわせて教えてください。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） とりあえず、3施設の月夜野体育館から始めさせていただきます。平成27年が283人、28年度が629人、平成29年度がこれは2月末ですが588人。

水上社会体育館が、27年が1,718人、28年が1,705人、29年度が1,826人です。

新治のB&G海洋センターが、27年度、1,145人、28年度が454人、29年度が353人となっています。

月夜野総合体育館は平成26年度からトレーニング器具の導入と入れかえを実施したため、利用者が増加しており、その整備したというような効果に、その効果があらわれていると思っております。

また、水上のほうの社会体育館は、恐らくですけれども、この辺はアウトドアの方がかなり利用しているということで、ほかの3施設に比べると多くなっています。

トレーニング体験会の軽スポーツ体験の実施参加者ですが、2月16日が11人、23

日が12人、2月2日が16人ということになっております。スポーツ推進委員を対象にしたトレーニング講習会、これも行われていまして、12月13日が8人、1月16日が3人、1月17日が2人という結果であります。

議長（林喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

- 4番（石坂 武君） トレーニング器具の設置されている施設は、当然各種スポーツ施設に併設されているわけですが、水上の社会体育館においては、公民館、資料館等が併設されていることで、施設的にはある意味大変望ましい施設ということだと思わなければならない、反面、月曜日が休館日となっており、泊まりを伴う合宿等においてそれがネックとなり、連泊のお客さんがとれないということが年間を通じて相当数あるということをお聞きしております。その点について、改善に向けてどのような考え方ありますでしょうか。また、これを承知しておったかどうか。

議長（林喜美雄君） 町長。

- 町長（前田善成君） 恐らくその辺のところというのが、考え方だと思います。というのは、社会体育ということで、教育委員会ですら所管をされているということになってきますと、今、石坂議員がおっしゃられるように、観光の資源としてそれを使えるかどうかという議論から始めないといけないということだと思います。設置の目的が、まず異なっていますので、その辺のところのすり合わせを行わないと、なかなか、今、議員がおっしゃられるような利用の仕方というのはできないかなというのが今の現状だという認識は持っていますので、その辺についても、やはり議員の方から質問されること、また、提案されることというのは多いので、その辺についてどういうことができるかというようなことを、まず調査を始めたいというふうな考え方ではあります。

議長（林喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

- 4番（石坂 武君） これに向けて、ちょっと質問しようと思ったんですけども、こっちで話をしてみたいんですけども、月夜野総合体育館においては年末年始以外はそういった休館というような部分のくくりがないと。また、新治の海洋センターのほうにおいては、ある時期について、7月8月でしたっけ、については月曜日通常休館なんだけれども、その時期は取り外して使えるようにしているというようなことがあるわけですが、その先の基準だとか、そういった部分を見直すというような動きはないのでしょうか。

議長（林喜美雄君） 教育課長。

（教育課長 杉木隆司君登壇）

教育課長（杉木隆司君） ただいまの石坂議員の質問についてお答えさせていただきます。

現在、3施設、3つの社会体育館があるわけですが、管理運営につきましては、合併時のものをそのまま引き継いできたという中で、先ほどの休館日の取り扱いにつきましても、月夜野につきましては年末年始のみ、それから、水上の社会体育館につきましては祝日が休館日、それから、BGについては月曜日の休館日というような形になったわけですが、その辺が3施設違うということもあります。また、利用者のある程度の利

便性ですとか、管理の統一性を図る意味でも、教育委員会のほうで検討いたしまして、休館日については3施設統合していきたいという形で、この4月から年末年始のみを休館日とするような扱いにする方向で、今進んでおる次第でございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 改善がされるという方向で、4月1日からということの中でちょっと安心をさせていただきました。

次に、2月26日付の上毛新聞のスポーツ面に、近々、プロリーグ参戦予定のみなかみを拠点にした3対3、3×3のプロバスケットボールチームが発足するという内容の記事が載っていました。

世界的な大会の出場も視野に入っているようですし、ユニフォーム等においてもMINAKAMI TOWNの文字が入ったものを使用すると伺っています。PR効果も相当期待できると思いますし、3対3、3×3においては、2020年の東京オリンピックの正式種目にもなっており、その面でも大変期待が持てると思いますし、チームの中には地元出身の選手も存在し、また、将来地元からオリンピック選手が生まれるということもあながち夢ではないのかなと思ってもいます。

あわせて、世界最高峰のトレーナーの資格を持った選手も近々みなかみ町に移住して、事務所もみなかみに置くという情報も入っております。スポーツ器具を使い、スポーツ選手のみならず、子供たち、あるいは保護者の方々、お年寄りの方々等、幅広い活用も見込めると思いますし、それによって健康になることにより、究極でありますけれども、医療費の削減に向かうことができればと。この部分でも期待大と思いますが、まず、この点についてどうかと。それとあわせて、もろもろで関係するであろう子育て健康課、町民福祉課、教育委員会、観光商工課、関係各課の見解も簡潔に伺えればと思います。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、石坂議員がおっしゃられた3×3のチームですか、MINAKAMI TOWN. EXEというチームだと思いますけれども、実際3×3というのは20代から30代の競技者人口が大体150万人ぐらいいると言われておりますし、逆にバスケット、高校生以下のバスケット人口って56万人いて、中学校の部活の中では一番人気がある種目になっているということから、そういうことをみなかみの町で行っていただけるということは、町にとってもいいことかなと、私自身は思っています。

また、今、石坂議員のほうから、トレーナー、その中で著名なトレーナーの方がいるというようなお話も少し聞いていましたので、その辺のところをこれから活用できればいいのかなとは思いますが、今のところ、うちの町としては、教育委員会のほうに阿部という職員がいます。阿部自体がまたトレーナーの、そういった資格も持っていますので、今、逆に、町がやっているスポーツ推進委員なんかのそういう対象としたトレーニング講習については、阿部が行って、まずはそういうスポーツを推進する人たちを、まずそういうことで教育してもらって、裾野を広げるためには、まず教える人たちも育てなきゃいけません

るので、そういった形でトレーニング、また講習会を行ったところです。

また、うちの町のトレーニングルームについては、今、トレーナーがいてどうかをするというようなトレーニング施設ではないですから、自分たちが行って、自分たちで勝手にトレーニングするというようになっています。そういったところに、まず、トレーナーとしてある程度トレーニングができるような方たちに行っていただいて、その器具のちゃんとした使い方、また、有効なトレーニングの仕方というのを広めていくことによって、健康だとか、そういうものの増進、また、それで、例えばですけれども、3×3というのはちょっとした広場、そんなところでもできますので、観光の誘客、また、すごい、お客さんとしてはかなり何万人と来てくれるというような、そういう試合も開催できるみたいなので、そういったものの中で利用できればと。観光資源としても利用できればというような形で考えられるものではないかなというふうに認識はしております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 各課、どなたかいますか。ちょっと振ってもらわないと。私から言えないんです。代表でもいいですよ、観光面とか、健康増進の面とかというので……

（「一番簡単なやつ」「観光ですかね」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 観光商工課長。

（観光商工課長 澤浦厚子君登壇）

観光商工課長（澤浦厚子君） 今のご質問の関係、バスケットボールの3×3のチームの件ですけれども、既に私たちも彼らとお話をさせていただいているところですが、今、町長も申し上げましたけれども、小さなイベントでも狭いスペースでできる、それと、また、プロバスケットボールプレイヤーの方が来て実演をしてくださるということで、人気が出るのではないかとというふうに期待しています。

町内のイベントにも、ぜひ、来ていただきたいなというふうなことで考えております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） ちょっと時間の関係で、ほかの課長さんに聞いたかったんですけども、それは別の機会ということで、次に移りますけれども、この3×3のバスケットにおいては先ほど来、触れておりますとおり、そもそもストリートバスケットの意味合いが強く、屋内でも屋外でも行うことができるという強みも当然あります。また、面積も通常の半分、2分の1で済みますし、1年中できるというメリットがあるわけです。今、観光課長のほうでも話もありましたとおり、各種観光イベント等でも有効に使えるかなというようなことも思っておりますし、アウトドアのメッカにまた一つ新しい魅力が加わることもでき、連携を持った展開も望めると思っておりますので、これは質問ではなく、よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、既に存在している特定非営利活動法人水上自然遊樂がこれについては母体となっ

て、法人の理念としてスポーツを通して町の地方創生を行い、先ほどの質問と重なる部分があるわけですが、大会や各種イベント展開等を実施することにより、ひいては宿泊面等においても相当な期待が持てるかと思えますけれども、町長、この辺見解があれば。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今さっきちょっと触れましたが、実際バスケットボールの人口というのは67万人いて、その中の56万人が高校生以下だと。なおかつ、中学生の部活で考えれば32万人で、全体の14%なんですね。だから、逆に言うと、そういう親御さんがついてくるとか、そういった世代に実は競技者が多いスポーツですから、うちの町にとっては子供さんが来る、そこへ親御さんがついてくる、そうやってお客さんがふえるというような可能性のあるものについて、ある程度そういった誘客、逆に言えば、サッカーなんかもアンダー18でやっぱり誘客したように、そういったものの中で1人が来るんじゃなくて、一緒に何人かついてくると、そういったものを入れ込んでいくことによって観光振興になっていくというような考え方は十分あると思えますので、その辺については同様な認識を持たせていただいていると思えます。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） なお、月夜野の総合体育館と新治の海洋センターにおいては、冬期間ジェットヒーターが配置、配備されていますが、月夜野においては体育協会の所有というように聞いています。また、一番北に位置している水上の社会体育館においては、1階の剣道部が持っている部分を除いて2階の体育館の部分にジェットヒーターが配置、配備されておりません。早急なる対応が必要かと思えますし、要望の声も強いものがあるわけですが、ご見解を伺います。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 月夜野体育館と新治のB&Gについては、会議室の暖房ということでジェットヒーターを購入したという経緯があります。水上の社会体育館については、そういった経緯がなかったというふうに聞いております。

ただ、今、議員がおっしゃっているように、それについてニーズがあるのであれば、それについてどういうことができるかということは、まず調べ、検討していく必要があるのかなということで、今、認識をさせていただいたところなので、それについて調査、研究をさせていただくような方向で考えさせていただきたいと思えますので、その辺についてはご容赦願いたいと思えます。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） ちょっと先ほど観光商工課長だけに聞いたんですけども、子供の視点から何か担当課であれば、その辺を簡単に聞いてみたいと思うんですけども。

議長（林 喜美雄君） 子育て健康課長。

（子育て健康課長 鈴木伸一君登壇）

子育て健康課長（鈴木伸一君） それではお答えします。

子供の関係ですと、うちのほうで管轄していますが、こども園と、あと学童クラブ等になりますが、バスケットの3×3ですか、簡単で、身近にできるということで、子供のうちからそういうものに親しんでいただいて、普及に役立てればいいかなとは思いますが、以上です。

議長（林 喜美雄君） 石坂君。

（4番 石坂 武君登壇）

4番（石坂 武君） 3×3の経験に対して特化をしながら言っているわけではなくて、トレーナーが来た中で、トレーニングについて有効活用ができますよという話をさせていただいたつもりでございました。時間がないので、その辺にて回答いいですけれども、今回の一般質問に向けて3施設のトレーニング器具を見させていただきました。

さっき、町長が言ったとおり、月夜野地区は比較的新しい器具が設置されており、水上の社会体育館と新治の海洋センターにおいては古いものが多く、特に水上においては大変古く危険な器具があるという状況であります。

計画的に買い換えと取り扱いについて対応をお願いしたいと思いますし、実際にトレーニングをしていた方がおりました。これは月夜野の総合体育館でしたけれども、やっぱりベンチプレスですとか、エアロバイクの充実をというご意見がやっぱりありましたので、これについては参考に触れさせていただきます。

トレーニング器具の有効活用、これは、さっきも言いました計画的に入れ換えをさせていただくことを、せっかく国際的な資格を持った人もみなかみ町に来るということも考慮に入れて、この方は定住することを覚悟でみなかみに来るという強い意志のもと入ってくる方です。

今後、町民の健康増進に向けても積極的かつ迅速にこの部分について取り組んでいただくことと、新年度のなるべく早い時期に、そういった1問目と関連しますけれども、意見聴取する部分で、町長と語る会だとか、あるいは、この部分に特化した中での説明会なり意見交換会をぜひ開いていただくことを切にお願いして質問を終わります。

議長（林 喜美雄君） これにて、4番石坂武君の質問を終わります。

通告順序2 1番 高橋 久美子 1. マイナンバーカード制度活用と自治体クラウドについて

議長（林 喜美雄君） 次に、1番高橋久美子さんの質問を許可いたします。
高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 1番高橋久美子、議長より許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

質問はマイナンバー制度の活用と自治体クラウドについてです。

昨年の9月定例会におきまして、マイナンバーカードの普及促進について伺いましたが、

当町における交付状況は1,487人、7.3%とのことでした。全国で見ますと、高いところは38%とかなり進めているところもあります。全国から見ての町村の平均は7.2%と当町とほぼ同じです。

そもそもマイナンバー制度の目指すところは、少子高齢化が急速に進んでいく経済社会のもとで、番号制度を使って、国、自治体、民間のICT活用を進め、真の国民の利便を図る経済社会をつくっていくためと言われています。その中で、マイナンバー、マイナンバーカード、マイナポータルの活用とあわせてさまざまな民間利用を工夫していくことにより、大きなビジネスチャンスも生まれると言われています。個人番号、すなわちマイナンバーの活用で、公平、公正な課税や社会保障の負担、給付の公平化、効率が行われます。このことは私たちにとって余りメリット感を感じられませんが、自治体にとっては重要で、マイナンバーの果たす役割は大きいと思います。

ただし、個人情報保護法の観点から、かなりセキュリティーの強化が求められると思います。

そこで、お聞きしますが、当町のセキュリティーについてはどのようなになっていますでしょうか。また、それにかけた金額等もわかりましたらお願いいたします。

議長（林 喜美雄君） 町長。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 高橋議員の質問にお答えします。

とりあえず、27、28年でかかったお金は4,000万円ほどです。その詳細については総務課長のほうから答えさせます。

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） お答えいたします。

詳細についてということでございますので、先ほど、27、28年度かけたお金4,000万円ほどということでございました。27、28いずれも繰越事業によってこの金額でございます。

実際に強靱化という形でインターネットの環境と町の情報の環境を分断して、今は運用しているということでございますので、基本的には外からの、何ていうんですか、インターネットを使っているところからのアクセスというんですか、それが町のほうにされないようにという形で構築をして運用しているところでございます。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） ただいま答えていただきましたけれども、システムの更新と合わせて4,000万という、そういうところの認識でよろしいでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） そういう認識で構わないと思っています。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1 番（高橋久美子君）　　そういうことで、そういう、ちゃんとマイナンバーカードに対してセキュリティーもしっかり整備してやっているわけですけども、なかなか、今、交付率が上がらないという現状があるというところをポイントと置いて、またちょっと話を進めていきたいと思うんですけども、それとあわせて、今はマイナンバーというところの果たすところのものを言わせてもらったんですけども、次に、カードはマイナンバーとは異なり、その使い方には制限がないと言われていています。本人の写真が記載されており、本人確認のための身分証明に使えるだけでなく、ICチップが搭載されているので公的認証用の符号を用いて、さまざまな電子活用が可能となるようです。マイナンバーを使うわけではないので、プライバシーなどの問題もなく、法律の規制がなく、民間の知恵によりその活用範囲が広げられるとのこと。オンラインバンキングを初め、各種民間のオンライン取引等に利用できる見込みです。

また、市区町村や国等が提供するさまざまなサービスごとに必要だった複数のカードがマイナンバーカードと一体化できます。そして、今のところ住民に一番身近でメリット感があるのがコンビニ交付です。これは、住民票、印鑑証明書などの公的な証明書をコンビニ等で取得できます。

昨年の定例会で、コンビニ等による交付につきまして、一般質問させてもらいましたが、前町長の回答は、大都市がほぼクリアできたころ町としても考えたいとのことでした。

現段階で、沼田市もサービスを開始し、この秋からは吾妻郡が一体でサービスを開始すると聞いています。そして、うちの町としてもテレワークセンターの施設も受け入れ、IT関連の働き方の推進の旗を上げている状況です。先ほども、もうちゃんとマイナンバーに対するセキュリティーのところも4,000万の費用をかけて整備をしているという、そういう状況の中で新町長としても前町長と同じお考えなんではないでしょうか。

議 長（林 喜美雄君）　　町長。

町 長（前田善成君）　　マイナンバー制度の活用というのは、自治体にとっては大事なことだと思っています。

ただ、5月の公表値と比べて、今、うちの町110人しかふえていないんですね。0.8%の増加です。

今、高橋議員がおっしゃられる沼田市、これ、沼田市はカードの発行と、あと、サービス、コンビニの交付サービスを始めました。じゃ、沼田市がどうなったかという話なんですけど、沼田市もほとんどふえていないんですね。7.4%が8.1%、約0.7%の微増という形です。

それで、このサービスをやっている沼田市から、またいろいろ話を聞きながら、どういう状況だということを勉強したいとも思っていますし、県内では、実は、群馬県では前橋、高崎、伊勢崎、沼田、富岡、玉村、その6つがとりあえず導入しているんですね。

それで、うちの町の規模等を考えると玉村町が一番近いだろうということで、玉村町がどうなっているかという話をちょっと調べましたが、1年経過したところなんですけれども、逆にみなかみ町よりちょっと交付率が低くて7.1%と。その利用件数なんですけれども、1日1件ないぐらいということなんですね。だから、これがやっぱり国の流れによ

って導入したんですけれども、あんまり芳しくないよというような状況のようです。

ただ、全国的には、平成30年2月15日の現在の調査では1,718市町村のうち、501の市町村が導入していると。だから約30%が導入しているよという形にはなっていますので、基本的に導入しないとか、周りがということではないんですが、今、お話しさせていただいたように、周辺の自治体もなかなかそれについてうまくいっていない。それで、先行事例を行っている自治体もなかなかそこがうまくいっていない。

じゃ、前橋、高崎についてもそんなにうまくいっていないということなので、まず、どうやったら基本であるカードの交付をふやすかというところにつながっていないと思うんですね。だから、カードの交付をふやすことが、今、高橋議員がおっしゃられるように目的なわけですから、それについてコンビニだとか、そういうサービスが受けられることが必ずしもカードを発行することになっていないということがどういうことかということを中心にちゃんと検証しないと、みなかみ町としてやりました、でも同じような結果でしたという話になってしまう可能性が大いにあると考えられます。

そういうことなので、その辺について少し調査をさせていただきながら、また、沼田市と連携をとりながら、どういった問題が起きているか、どうすれば改善するかというような連絡を密にとって、これに対して対応をしていきたいかなと思うのが、今の私の考え方です。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） ただいま答えていただきましたけれども、これからそのマイナンバーカードをどういうふうに、何ていうんですか、交付率をふやしていくかということもちょっとこれから触れていきたいと思いますので、先ほど町長が答えていた答弁とかなりちょっと重複したり、いろいろ行ったり来たりする部分もあるかと思うんですけれども、すみません。

それで、今、やっぱり町長がこういった答えてくださったとおりで思うんです。ただ、やはり今、国が進めているこのコンビニ交付というのは、まず、皆さんにこのマイナンバーカードということの利便性を少しでもわかってほしいという、その辺のところはかなりあるのかなって。これから国が目指す形の中で、まず一番身近なコンビニ交付というところを始めていくというところから、徐々にまた効果が生まれてくるということを狙っているのではないのかなというところがあります。

もし、これが何も始めなければ、マイナンバーカードのかえて普及というのは進んでいかないのではないかと思います。それだけで、先ほども町長いろいろの、これに限らず、いろいろ費用対効果で考えるつもりはないということをおっしゃっていただけけれども、まさにこの辺のところから、この辺のことも、多様化の時代を考えていくと、やっぱりさまざまなニーズがあるところで、そこのところをやはりきちんとニーズとして取り上げていくというその姿勢は大事かと思えます。

次に、マイナポータルのごとでちょっとお聞きしたいんですけれども、これは個人ごとにコンピューター上に設けられるポータルでマイナンバーカードをリーダーに読み込ませ

て、パスワードを入力して活用する官と民のオンライン情報連携の仕組みです。

子育てに関する行政手続ワンストップができたり、行政からのお知らせが自動的に届いたりします。そのほか、公金決済サービスなども予定されています。

当町で一番身近なサービスとしては、昨年の11月よりスタートした子育てワンストップのサービスの活用です。このサービスの活用の状況をお聞かせください。

議長（林 喜美雄君） 町民福祉課長。

（町民福祉課長 内田 保君登壇）

町民福祉課長（内田 保君） みなかみ町ではマイナポータルを利用した子育てワンストップサービスにつきましては、オンライン申請の検討を行った経緯はあるのですが、利用者はどのぐらいいるのか、また、情報システム事業者の対応等まだまだ課題がありまして、当面は今までどおり窓口申請としたところでございます。

オンライン申請につきましては、近隣の市町村の動向を見ながら取り組んでいければということで、今のところ行っているのは、サービスの検索機能を提供しているというようなことでございます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 先ほどお答えいただきましたけれども、そうですね、サービスの検索機能は、ほかのちょっと調べたところによると、群馬県内の自治体の中でも、このサービスの検索機能もまだ取り入れていない自治体もあるところと比べますと、うちのみなかみ町はかなり進んでいるというところではうれしく思いました。

そういうところで、先日、若いママさんが2歳ぐらいのお子さんを連れて町の窓口に見えていました。2人目のお子さんを出産したばかりで窓口に来ていたので、お声かけをしたら、出生届などの手続に来たとのことでした。小さなお子さんを連れての手続は大変そうでした。このようなタイミングのときに、家にいながら手続ができたら本当に助かるのだろうなと思いました。それができるのがこのぴったりサービスのわけです。

うちにいながら、小さな赤ちゃんがいても、子供がいても、電子申請で可能になるわけですから、やっぱり子育てに優しい町を標榜しているうちの町としては、こういったことも取り入れていく、一日も早くそういうものに対応できるシステムをつくっていくことが重要かと思いますが、その辺に関してはどうでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） まず、マイナンバーの必要性というのは、私、別に必要じゃないとは言っていないので、ただ、行政サービスとして、今、必要なことだし、効率を上げていくためにはこれは必要だと思っています。

それと、コンビニ利用がカードをふやすためのものになっていないというお話をただけで、サービス自体、マイナンバーのサービス自体は上げていかないと行政効率はいくなくないと思っていますので、それとあと、マイナポータルですが、これについては、やはり内閣府のほうでつくっているのですが、これ自体の防御、逆に言うと、自治体がそれ

についてお金をかけなくちゃいけないというところが発生します。ただ、単にそれを使えばいいということではなくなってしまうので、その辺のところの問題というのうが、なかなかこれが推進できないというような、中に入っているようです。

また、マイナポータルサービス、ぴったりサービス、この中には、今、高橋議員がおっしゃられるように、今、若者の人、特に若い人たちはLINE使っていますけれども、そのLINEと連携したサービスがあるわけですね。ですが、この辺のところの問題がクリアできなくなかなか市町村としては、それがどれだけお金がかかって、どれだけ、逆に言うと、サービスの向上とか、申請していただける方々の向上になるかということには、今のところ、ちゃんとした明確な答えが見えていない状況にあると思っています。

今、みなかみ町では、電子申請、まだやっていませんけれども、サービス検索のサービス自体は、まず、妊娠、出産、子育て、引っ越し、住まい、ご不幸、戸籍、住民票、印鑑登録、障害者支援なんかのカテゴリーで、子育てに関するサービスの検索ができるので、そういった意味での検索機能ということであれば、今、高橋議員がおっしゃられているようなマイナポータルのその機能を必ずしも使わなくても、サービスの的にはそれほど困らないのかなという、申請だけであれば、基本的には来ていただいて申請するというだけでもそれほど困らないのかなというふうに思っています。

今、お話したように、まず、このマイナポータルを入れることによって生じるその経費だとか危険度というものに対して、ある程度の答えが見えていないことと、それと、それについて、なかなか行っている自治体だとか、成功している事例というのがあんまり見えないというところで、行政としてはもう少し様子を見させていただいた中で、ちゃんとしたその方法、また、方向性が見えた中で導入しても遅くはないのかなと。

これがうちの町でそのサービス、検索サービスというものが持っていなければ、これについて足早に考えていく必要があると思いますが、今のところその代用品のサービスを持っていますので、それについて時期早々、まだ様子を見ている段階でもいいのかなというのが率直な意見です。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） そうですね。そこのところは町長のおっしゃるとおりだと思うんですけども、そこで、ほかの自治体のところをまた引かせていただくんですけども、前橋などはやっぱりマイナンバーカードの利便性を高めようというところで、マイナンバーカードを使ってお得で便利のふれ込みで各種クレジットカードのポイントや航空会社のマイルを前橋ポイントに変換して、地域の商店、公共施設などで1ポイント1円分の使える仕組みをつくっているというようなことで聞いています。このことで地域経済の応援にもつながります。

それで、今、それぞれがそういう自治体でマイナンバーカードの利活用を促進する取り組みがまさに今、いろいろなところで始まっているわけですが、やっぱり先ほどもやっぱり町長がおっしゃったように、これはやっぱり私たち一人一人がマイナンバーカードの利便性を感じて申請して取得する行動を起こさない限りこのカードの広がりというのはない

わけです。

これがやっぱり今、本当に大きな、国としても課題になっているので、このマイナンバーカードの交付に関しても、今、上限5,000万円ぐらいで財政支援も総務省のほうは行っていると思います。そして、また、国よりマイナンバーカードをちゃんと自治体で広げてほしいということで、マイナポータル用の端末が配置されていると思うんですけども、うちの町には何台配置されていて、また、どのような活用を進められていますか。

議長（林 喜美雄君） 総務課長。

（総務課長 原澤志利君登壇）

総務課長（原澤志利君） お答えします。

端末につきましては4台だったと思います。基本的な考え方とすると、本庁に2台と両支所に1台ずつ配備というのが基本的にそれがいいのかなとは考えているところです。

ただ、実際には、現在、配備というか利用はまだできません。というのが、システムと機械のちょっと不具合がございまして、現在それを調整中というようなお話を聞いておりますので、まだ実際に配置はしてございません。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

- 1番（高橋久美子君） 先ほども答えていただきましたけれども、今、このかなりマイナンバーカードを進めている自治体は、この機械を使って各行政区に出向いてマイナンバーカードの説明を行って、デメリット、メリット、そういうものをきちんとやっぱり住民の方に説明をして、それでそのシステムを使ってその場所でマイナンバーカードをつくっていただくような取り組みをしているそうです。

そういったところから見ると、やはりまだまだうちの町ではマイナンバーカードに対する私たち自身のまだ、何ていうんですか、そういう対策というのをまだ本気でちょっと考え始めているのかなというようなことも感じています。

このやっぱりマイナンバーカードの利便性の周知をさらに幅広く進めるためにも、例えば町民の方が集まるイベントなどのところにマイナンバーカードのブースなどもつくって申請を促したりとか、そういうことも必要だと思いますので、先ほども言いましたけれども、そういうセキュリティーにもお金もかけて進めているわけですから、ぜひ、何らかの形で今後アクションを起こしていただければということを思うわけですが、その辺についてはどうでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 繰り返しになりますが、マイナンバーカード自体の発行部数をふやさないという話はしていないと思います。それをふやすことは大事だと。それについてそのポータルサイトだとか、例えば、コンビニのそのサービスというのが、必ずしもイコールになっていないと。比例していないと。そういうものを行うことによってふえていないというお話をさせていただいているだけで、逆にそれを活用して、例えばですけども、地域振興になる、じゃ、それ入れたから買い物券発行するだとか、そのカード自体の発行をふやす

アイデアをいただいたほうが逆にマイナンバーカードの発行量、量がふえるわけですから、そういったお話をさせていただいたほうが賢明なのかなと。

今、お話しさせていただいているように、マイナポータルを入れるという話になると、かなりのシステム的な改良が必要になってきます。その辺のところは、今、行政のほうで、例えば、総務省から秘密を守るために、きっちり、その秘密保護のためのシステムをつくりなさいというのと、それと逆に、そういうものにつなぎなさいと、相反する話をされていますので、その辺の相互性をとりながら、どういうことができるかという判断もしていかなくちゃいけないというのが本当のお話になってくると思います。

なので、今、お話しさせていただいているように、そういうサービスがあることも存じています。そういうことも使えるということもわかっています。ただ、それを使うことによって、マイナンバーカードの発行数が必ずしもふえる方向にはならないかなというのが、今、現状として把握している事実だと思っています。

なので、逆に、高橋議員が言っているように、ふやすということであれば、直接それをふやすための直接的な利益誘導だとか、皆さんにとってプラスになるような、そういう施策のほうの展開を行っていくほうが賢明なのではないかなというのが、今の私の考えです。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 町長もそういうお考えなので、ぜひそのマイナンバーカードをふやすというところについての施策ということで、しっかりと今後対応していただければと思います。

次に、自治体クラウドについてですが、これは、住民情報、税務、福祉などの情報システムやデータを外部のデータセンターにおいて管理、運用し、複数の自治体で共同利用する取り組みです。そして、自治体クラウド導入の効果は情報システムのコストが少なくとも3割程度の削減ができる。それから、情報セキュリティー水準が向上する、災害でも業務継続ができる、職員の業務負担が軽減される、参加団体の業務が共通化、標準化されると言われています。

そこで、お聞きしますが、このクラウドについて、当町ではどのような取り組みとなっていますでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） すみません、まだ、町ではマイナンバー制度の導入に当たり、システムの更新とか強靱化を図っているのがやっとの状態で、現在、利根沼田地域で、自治体クラウドのほうの取り組みを始めているところというのは、みなかみ町を含めてどこも始まっていません。

それで、今、高橋議員がおっしゃられるように、その共通システムの専用回線で共同管理するというので、いろんなデータを安全に確保しながら、どこからでも取り出せる。クラウドの一番いいところを使用しながら、事務効率だとか証明書、そういったものの事務処理ということは統一的に、いろんなところできるとということで、メリットはかなりあると思うんですが、そのデータの安全性の確保だとか、民間ベースに預けますんで、その民間のベースに預けるときのセキュリティーって物すごくお金がかかるというのもまず

あります。それと、あと、保守管理のための費用というのも生じてくるというところが、まだまだ課題として多く考えられるところもありますので、今のところ、この自治体クラウドについて、すぐに導入できるかどうかというような考え方にはなっていません。

また、県内の自治体にもそういったものが導入されてきて、情報収集ができるようになってきたら、それについて改めてお話をさせていただきたいと思っているのが今のみなかみ町の現状です。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 今、町長もお答えいただきましたけれども、県内ではこの自治体クラウドに向けての動きが出ていまして、前橋、高崎、伊勢崎市などは連携して始めることになっているみたいですし、お隣の吾妻郡も連携に向けて自治体クラウドを始めるということで聞いています。

そういった部分で、利根沼田地域の取り組みというのも先ほど聞きましたら、まだそういうテーブルに着いて話もしていないというような状況ということで認識させていただきました。

今、現在、国では、デジタルガバメントの実行計画を進めているようで、これは行政サービスのデジタル化で、具体的にはこの添付書類の撤廃に向けてのそういう一括した法案の作成とか、あと、オンライン化の徹底で押印、要するに判こを押すこととか、対面等による本人確認の手法の見直し、また、先ほども言っていましたけれども、出産とか子育ての段階で、あとはまた死亡相続等のそういう極めて複数なこの手続がワンストップで処理できるというようなことを、そういうものをワンストップ化にするという、これらの政策の実効性を高めるために、国では各府省に対して中長期の計画策定を義務づけて本年度の上半期までにそのめどの実効性を促すために計画策定を促しているようなんですけれども、こういったところの動きをお聞きしますと、やっぱりマイナンバー制度や自治体クラウド化の動きというのはますますやっぱり加速してくるものと思われま。

そして、今、人生100年時代ということをしきりに言われていますけれども、この人生100年時代をやっぱり安心安全で豊かな社会にするためなんですけれども、今、現実には少子高齢化で、今、働き手がいろいろなところで不足をしているということで、そのためにやっぱり今、政府というか国では、こういう自治体クラウドみたいなのを導入を進めて、とにかく、低コストで町民に対して、何ていうんですか、町民に対してのサービスはハイレベルな町民サービスができるようにというところを根底に考えて、今、こういう施策を国は打ち出していると思うんですけれども、やっぱりそれを内容を充実させて現場で実行されるのは自治体にそこが任されるわけで、そういった部分で、うちの町としてもこれからのまちづくりを考えていく上で、そういった部分を戦略的に進める部門の人材の育成と確保というのも、非常にやっぱり大事になってくると思うんですけれども、その辺の町長のお考えをお聞かせください。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） こういうことが必要だというのはわかっていますし、逆に今、うちの町は単

独クラウドでやっと始めて導入したばかりなんですね。その辺のところのやっぱり相関というのをどう使うか。あと、やはり大きな市になってくると、それ専門の職員の方がいますから、防御とか、また、それで委託も出せます。ただ、うちの町にとってはなかなかその辺のところできませんので、どうしても自治体の連携ということで、経費は楽になります。同じ書類が出てきます。ただ、クラウド自体がもともといろんなところでアクセスができますので、それについてのセキュリティーというのはどうやってやっていくかということが明確になんない限り、なかなかうちの町でそこで手に挙げるということではできないというのが本音の話です。

昔みたいに、町に何か大きな施設を持って、そこへデータバンクとして預けるということではないですから、外のデータに預けて、それを引き出してくるという、そういうシステムでみんなを使っていきましょうということになっていますので、その辺の安全性というのをどうやって担保するかというのは、また違った話になってくると思いますんで、今、高橋議員がおっしゃられるように、人間が少なくなれば働くところもありません。うちの職員も仕事がどんどんふえています。そういう中で効率よく仕事を行っていくことというのは必要なことだし、それを考えていかなくちゃいけないことだということは十分考えていますので、これについて、今すぐに取り組みという話にはなかなかならないのが現状だというお話として考えていただければありがたいかなというふうに思います。

議長（林 喜美雄君） 参与から手挙がりました。

それでは、参与。

（参与 田村 秀君登壇）

参与（田村 秀君） 発言の機会をいただきましたので、初めて登壇させていただきます。

私はもともと総務省の人間でありますし、議員ご指摘のとおりだと思います。

ただ、この中で、まさにマイナンバーで住民票をとった方がいらっしゃるかどうかというといらっしゃらないと思いますが、あ、いらしゃいましたか、ありがとうございます。

私は、きのうとってまいりました。基本的には私のようなあちこち異動するようとか、そういう証明書が必要な人間にとっては大変便利であります。なかなか一般の方にとって、そもそも住民票を1年間で何通とるだろうかと。あるいは印鑑証明、あるいは所得証明、そういうものを考えるとなかなか限界があるということ。

実は、この議論の中でぜひ先生方にもぜひ考えていただきたいのは、やはりこの議論というのは自治体の自主的なものというよりも国全体で本来やるべきことを自治体に任せ切っているという、これはもともとの制度の問題、もともとはこの背景には国民総背番号制的な反対の流れの中で、なかなか妥協の産物として限定的にやってきたということであり

ます。しかし、一方で、韓国やエストニアや電子政府というものが世界各国でまさに進んでいる中で、日本が非常におくれているとなると、今、実は一番大事なのは、国としてのシステムのきっちりとした構築、すなわち、こういうものというのは自主性が大事という分野よりも統一性が大事な分野なんです、実は。システムですから。ですから、ある程度スケールメリットも必要になると。そういう中で、もちろん、子育てサービスとか、そういう

ものも大事だと思いますが、実は一番大事なのは金融とか、例えば、一番わかりやすく言えば、恐らく、相続の関係に関してマイナンバーがすごく便利だとなればほとんどの人はやると思います。

親子とか亡くなって、その相続とか、いろんなところに申請をします。そういうものがワンストップでなれば、恐らくマイナンバーというのは恐らく普及すると思うんですが、実はそこには個人情報保護制度が今でも国も地方もばらばらであるという問題がございます。自治体間でもばらばらです。

あるいは、これは東日本大震災でも顕著になりましたのは、民間病院と国立病院と公立病院では患者とか、そういう人の情報について扱いが全部違うということで、非常に混乱が生じたということがあります。

そういうことからしますと、自治体、みなかみ町でできることにも一定ありますが、むしろそれだけではなく、国に対して、しっかりとした制度をつくるとか、あるいは財政的な支援がこういうところで必要ではないかということやさまざまな形、政治の力など、いろんなところから言っていただくことが望ましいかと思えますし、たまたま新潟大学に鈴木正朝という教授がいるんですが、まさにその人が個人情報保護制度の問題点について、日本のオーソリティーでいろいろ指摘されている方もいらっしゃいます。

そういうのを含めまして、一方で、まさに先生ご指摘のように、いろんなサービスに使える可能性はある、ただ、コストもかかる、さらに言うと、住民票ということには一定の限界がある。そういう中で、やはりもっとも国に対して政策提案をするということも小さな町であっても必要じゃないかと思えますし、私もいろんな方にはこの話はしたいと思っています。

すみません。出しゃばりしましたが、発言したかったもので立たせていただきました。

議長（林 喜美雄君） 高橋さん。

（1番 高橋久美子君登壇）

1番（高橋久美子君） 今、思いがけず田村参与にいろいろお話をさせていただいて、大変勉強になりました。

そういうことで、やはり、今必要なのはこのマイナンバーカードのことについて、やっぱり時代は必要としている部分というのは、もうこれは紛れもない現実だと思うんですね。それに対して、今、田村参与がそういうにお話をしてくださったように、いろいろなところのやっぱり議論というか、または、私たちにもそういうところでもっともいろいろたくさん勉強していかなくちゃならない部分ってあると思いますので、そういったところも、今、いろいろ要請をすればいろいろ講師とか派遣をしてくれて、そういうところを学ぶというようなことも総務省のほうでは後押しをしているようですし、そういったところのまずは議論を起こすというところからも進めていただいて、本当にやっぱりセキュリティもしっかり守りながらというところで、そういう方向性があるというところで、またうちの町としてもいろいろ自然とタイアップしながら、そういうところもしっかり町として力を、エコパーク進めていますけれども、その町なんだけれども、しっかりそういうところにもやっぱり力を入れてやっていくというようなところも大事かと思えますので、I

まず最初に、地域のエネルギー自治ということでお願いいたします。

2011年3月東日本大震災が起き、そして福島第一原発事故から7年を迎えました。そして、今なお6万8,000人も福島県民がふるさとを追われ避難生活を強いられています。家もあり、土地もある、草ぼうぼうだけれども、畑もある。でも、帰れない。ふるさとが奪われたままです。原発の停止から多くの人々がコンセントの向こう側を意識するようになりました。電気のことを我が事として考えざるを得なくなったと言われていま

す。

電源群馬の一翼を担っている町です。また、小水力発電も試みております。今、地域のエネルギー自治の取り組みが、国のエネルギー政策の方向性の鍵を握っていると言われ、エネルギーを自分たちの問題として捉え、エネルギー生産に地域で積極的な取り組みが行われています。それを大手企業に頼るのではなく、その地域の自治体、地元企業が担うことを基本にしたモデルとして、雑誌には長野県の飯田市、岡山県の真庭市、同じく西栗倉村などが紹介されていました。

これらの地域は山が放置され、森林の価値が下がるという悪循環に陥っていた中、間伐材を村内で製材、商品化し、消費者に直売、付加価値を生み出し、村に雇用と利益を生み出す仕組みをつくったといいます。

これまでのエコパークみなかみ、論議も行われているところですが、こうした地域にも学び、改めて地域のエネルギーについて、町長の見解をお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

（町長 前田善成君登壇）

町長（前田善成君） 林議員の質問にお答えします。

長野県飯田市は、テーマパークかぶちゃん村で2015年から3,600キロワットの木質バイオマス発電所が稼働しています。地元の間伐材からつくったチップを燃料とし、チップ使用料は1日11トン、年間3,630トン、発電量は年間285万1,000キロワットアワー、792世帯分の電力を賄えています。また排熱を利用し、燃料用チップの乾燥及びイチゴハウスの栽培を利用しています。

岡山県真庭市は、木質バイオマス活動の国内の代表例でもあります。集積材最大手の銘鋸工業が森林組合など、地元の木材関連団体とともに、2015年から国内最大級となる10メガワットの発電所が稼働しています。燃料は地域からの間伐材の未利用材燃9万トンと製材所から出る小材など、一般木材を5万8,000トンで発電量は年間7,900万キロワットアワー、2万2,000世帯分の電力を賄えています。真庭市の総世帯数が約1万8,000世帯ですから大きく上回る数値です。バイオマスタウンとしての成長は、視察ツアーという新たなビジネスも生み出しています。

岡山県西栗倉村は、百年の森構想を上げ、林業で環境負荷が少なく、持続可能な地域づくりを目指しています。村内には5,000立方もの未使用用材があるため、村内の温泉施設にまきボイラーを導入して利用を行っています。現在、湯〜とびあ黄金泉に1,700キロワットのまきボイラーに、あわくら温泉には75キロワット1基が導入されていま

す。今後、未利用材料に見合う施設をふやす予定でありますし、新規雇用を5名とする目標も上げています。

これらの実態はバイオマスタウン構想、またはバイオマス産業都市構想を策定し、補助金等を活用し、木質バイオマス以外の地域資源を含め、資源の地域内循環に取り組んでいます。

みなかみ町においては、民有林が約1万3,400平米あり、森林資源の活用については、間伐材を建築資材等に供給し、得られた利益を森林所直者に還元していますが、木材需要と供給を検証しながら、森林資源が循環する仕組みを模索したいと考えています。

町の水力発電所は、現在、矢瀬公園内に売電目的外の発電施設が稼働しています。現時点での水力発電所の計画はございません。

太陽光発電については、一般家庭向けの補助金制度で対応しています。再生可能エネルギーについては、東日本大震災の後、固定FIT、固定価格買取制度が創設されてから急速に広まり、特に太陽光発電施設は設置に係る規制や費用が比較的少ないことから、本町においても数多く設置されています。しかし、景観や環境、災害等への影響が懸念されているとして反対する声もあるのも事実であります。過日、新聞報道もなされました。

町では、太陽光発電施設に関するガイドラインを策定し、本年2月より運用を行っているところです。また、景観団体への意向を控えていることから、より適切な運用を進めていきたいと考えております。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） 震災以降、多くの国民が原発はもう動かしてほしくないという強い思いを持っていると思います。原発を再稼働すれば、計算上ではわずか6年で全ての原発の使用済み核燃料プールが満杯になると言われています。処理方法のない核のごみという点からも、再稼働路線は完全に行き詰っているといえます。

東京電力柏崎刈羽原発は、規制委員会が昨年末に6、7号機は適合の判断が下されていますが、その審査には多くの問題点が挙げられています。規制委員会の審査で1、4号機の防潮堤は、液状化によって倒れるということを認めているそうです。その地続きでつくられている6、7号機は運転を認めているという形になっています。

新潟県のこの地元では、建設当初から柏崎刈羽原発は、豆腐の上の原発と言われているそうです。建物の直下に多くの断層があることや、大きな地震動が襲い得ること。福島第一原発以上の大量の地下水が流れ込んでいる。敷地の下の断層の活動年代についても、疑義が出されているなど、立地そのものの危険性が指摘されています。

そうした中、みなかみ町は、この柏崎刈羽原発からナビで見てもみたら120キロです。直線距離で70キロほどと言われています。こうした近くにある柏崎刈羽原発、原発については、町長はどのようにお考えでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今うちの町にふさわしいのはバイオマス、そういった自然を利用した発電、

そういったものがうちの町にふさわしいという見解で考えさせていただければありがたいかなと思います。

私、首長ですから、逆に言うと、首長としてこの町にとって不利益なことというのはなかなか考えられないので、利益を生み出す方向で町政を運営していきたいと思っております。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） 新潟県で野党共闘で米山知事が誕生しています。米山知事はこれまでの原子力発電所事故の安全管理に関する技術委員会というのがあったのですが、それに加えて原子力災害時の避難方法に関する検証委員会で、健康、生活に関してその委員会で行う。また、原子力災害時の避難方法に関する検証委員会で、避難計画の実効性などを検証するとしています。

この3つの委員会の論議を踏まえた検証総括委員会で、福島原発事故の原因と検証を引き出すとして、全国的にもほかに例のない体制がつけられているといいます。

米山知事は、安全というものを県独自で検証し判断するとして、その検証には三、四年はかかるとしています。そして、原発に頼らない再生可能エネルギーへの転換を考えたいとしています。すぐに自然エネルギーで代替は難しいけれども、相当ふやせるという実感を雑誌には書いておられました。

こうした態度、対応といいますか、とっていただいている米山知事です。ぜひ町長からもエールを送っていただけたらなと思っています。町長、以前、米山知事とお友達だと聞いているので、あえてこの質問をさせていただきました。ぜひそうした中で、町民への安心を提供していただきたいということを考えました。いかがでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、林議員がおっしゃるように、新潟県の知事の米山知事とは一緒にいろいろ試験を受けたり、一緒に選挙をやった仲間なのでよく存じています。かなり頭がいい人で東大の医学部を出ているような人ですから、この検証を私は近くのちょうど県境の町みなかみで推移を、どういう形で検証していくのか、見守っていききたいというような考えでいますので、その辺のところはそういうふうな考え方だと考えていただければと思います。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） ぜひお隣の首長として、そういう形で引き続いてお願いしたいなと思っています。

2つ目の質問に移ります。

健康診査と健康づくりについてということでさせていただきます。

健診の現状についてなんですけれども、平成28年度の主要施策の成果報告書で、健康づくりの推進として三十数目の項目で報告されています。その半分の項目で、病気の早期発見として各事業が行われています。しかし、そのうち多くの項目で受診者数が低下しているという報告になっています。これらに対する見解はいかがでしょう。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 健康診査と健康づくりについてであります。40歳以上の全住民のうち、国保の人間ドック助成受給者及び社会保険加入者を除いた人を分母とした町の検診受診率ですが、胃がん検診は平成26年14.2%、平成27年度13.4%、平成28年度12.7%と毎年低下しております。平成28年度からは、胃内視鏡検査が厚生労働省の推奨する検診と認められるため、町では受診率低下対策として同年度から胃の内視鏡検査を含める、受ける方に対して1人8,000円の費用補助を始めました。また、平成30年度から利根沼田管内で体制を整備して医療機関へ委託して実施する方法に切りかわることにより、自己負担が大幅に減る予定です。このことで、受診率の向上が期待されております。

次に、大腸がんの検診ですが、平成26年度30.3%、平成27年度27.9%、平成28年度25.6%、こちらも毎年低下しています。受診率低下対策として、40歳から61歳までの方で、年度末現在の年齢が41歳、44歳、46歳、49歳、51歳、54歳、56歳、59歳、61歳の旧年齢の方に対して、検診費用を無料にして受診を促しています。また、無料年齢の方に対して、個別に郵送で受診の勧奨を行っています。

次に、結核、肺がん受診ですが、平成26年度は37.5%、平成27年度は35.3%、平成28年度は34.1%と、こちらも毎年低下しております。受診率の低下対策としては、特に65歳以上の未受診者について、未受診者の理由を調査し、今後対策に生かす予定です。

その他に子宮頸がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診、骨密度検診、若年者健診がありますが、いずれの検診においても、40代、50代の受診率が低い傾向にあります。今後、これらの年齢の受診率を向上させるために、今まで以上に受診しやすい検査体制を整備する必要があります。そのためには、医師会や検査機関とさらなる協議を行い、個別検査や休日検診を実施して受診機会を拡大することが必要だと思います。

また、がん発見率を向上させるなど、検診をより有効なものにするために、制度管理にも力を入れていきたいと思っております。

なお、平成25年度から29年度までの第1次みなかみ総合計画の後期基本計画では、健診受診率が病気の早期発見という基本事業の成果指標に設定されておりますので、平成30年度からの第2次総合計画においても、同様に指標として設定し、計画的に向上を目指していきたいと思っております。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） ぜひ健診の受診率を高めていくということが大切かなと思っております。

私も生協の仕事をしてきた中で、組合員の集まりなんかで周囲で早期発見ができたなどからは関心が高まるというようなこともありました。ちょっと余計な話を思い出したんですけども、沼田の奥で利根町の奥なんですけれども、私、外歩きするときは血圧計を持って歩いていたんですが、お茶飲みしていたので、血圧はからせてくれなくていうので、血圧はかりましたら、1人の方が不整脈がありました。不整脈は即病気とは関係ないようなんですけれども、その方には不整脈あるねということで、ついでのときでいいからちょ

っと先生に相談してみたらなんていうのを話してみたんですけども。その方は早速地域の診療所に行きまして、そしたら即、よくこれがめっちゃだねと言われたというようなこと言われています。ぜひちょっとしたきっかけだと思いうんですけども、そういうのをしながら、やっぱり健康を守っていくということが大切かなと思います。そんな経験がありました。

ぜひ今は個人情報だとかプライバシーなどもあって難しい状況だとは思いますが、ぜひ検診を高めるということで進めていただけたらなと思っています。

今、中之条町では歩いてためる健康ポイント事業というのをやっているそうです。これは、中之条出身の青柳先生という方の研究で「奇跡の研究成果」ということでネット上に取り上げられています。中之条では歩いてためる健康ポイント事業として行っています。ここでの成果は、1日のうち、中強度程度の活動がしっかりできていた人は病気になりにくく、またやり過ぎもよくないということで、健康の秘訣は、自分にとって適度な運動が年間を通じて日常的になされていることだ。具体的基準として、年間を通して平均1日8,000歩、中程度の運動20分が目安としているそうです。実はこれを沼田市でも今年度取り入れて健康づくりに役立てようとしているそうです。

町でもこうしたことを取り入れ健康づくりを進めてほしい、健康づくりのきっかけづくりをしたらと思っているんですけども、いかがでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） この質問については、昨年の6月に同様な質問がございましたので、そのときの答弁と重なるところはあると思いますけれども、中之条町で10年以上前から地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの事業として、65歳以上の全住民を対象に身体活動と病気予防の関係についての調査、研究が行われています。

この事業の一環として、500人を対象に歩数と早歩き時間を計測できる身体活動計を携帯してもらい、1日24時間、1年365日の身体活動状況をモニターしています。

質問にあるように、歩いてためる健康ポイント事業は、平成29年度から始まりました。この健康ポイント事業は、先ほど申し上げた調査、研究で使っている身体活動計を活用して、参加者の1カ月平均の歩数を計測し、歩数によってポイントを付与して、そのポイントに見合った商品をプレゼントするというようなものです。現在までの参加者は約600人ということです。

また、長野県の上田市の健康づくりチャレンジポイント制度は、平成27年度6月から始まりました。この制度は、各種検診を受診したり、健康づくりに関する講座やイベントに参加したりすることでポイントを獲得することができます。ポイントは公共施設の無料利用券と交換できるほか、スポーツ施設や農産物直売所等で利用できます。

さらに、今さっきお話があった沼田市では、平成30年度からスマートウェルネスぬまた推進事業の一環として、健康ポイント事業を開始する予定です。この事業は、中之条町と同様に身体活動量計を参加者に配付し、1日20分、8,000歩を目安に歩数によってポイントを付与するものです。また、健康診療や講演会参加にポイントが付与されます。詳細はいまだ決まっていますが、ポイントは買い物の際に使えるなどの特典を考えてい

るようです。

さて、みなかみ町では、現在のところ、健康ポイント制度は導入しておりません。しかし、それに近い制度として、健康クーポン券交換制度を実施しています。この制度は、町が行う栄養教室、または運動教室に年間5回以上参加した75歳以下の方に1,000円のクーポン券を交付するもので、クーポン券は町が行う健診を受ける際に使えます。交付者は平成28年度で81人となっております。このように、教室に参加することで健康に関する知識と体力の向上が図られるだけでなく、各種検診が受けやすくなるという相乗効果が期待されております。

今後は健康クーポン券を獲得できるプログラムをふやしたり、利用できる範囲を広げたりするなど、制度の拡充を図る必要があると考えています。

健康ポイント制度においては、ポイントに反映される歩数などの数値の測定方法として、中之条が導入している身体活動量計を参加者に貸与する方法や個人のスマートフォンの機能を活用する方法が考えられます。その身体活動量計というのは、結構1台で高いもので5,000円から数万円するものがあります。そのほかにかかる費用として、データ管理のシステム、そういった構築費、また更新費、特典に関する経費などが考えられます。費用として、ほかにポイントを特典と交換するための仕組みをつくる必要もあると考えられます。

このように、導入するためには継続的な予算やノウハウが必要になりますが、今後は先進地事例を調査し、ヘルスツーリズム推進協議会、スポーツ団体など健康推進にかかわる町内組織と連携し、現在の健康プログラムを活用した方法を研究していきたいと思っています。特に、スマートフォンを活用するとそういう機械の導入をしなくても済みますから、その制度なんかについても、今調査しているところなので、その辺について平等にいろいろなものが図れるような、そういう方法を模索していければ、今、この中でも書いていますけれども、ヘルスツーリズムという部分の中で、そういうものも取り入れたらいいかなというような考え方は持って研究を進めているところです。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） 私自身の情報把握不足というようなところもあったようです。すみませんでした。

引き続き、道路の環境整備ということでお願いしたいと思います。

私、議員になる前から、以前から道路が汚れているという感じを持ってまして、3年ほど前にも質問させていただいています。

前町長の答弁では、政権交代で道路清掃が年2回から1回になったと聞かされています。私は、地域によるかもしれませんが、町内ではその1回も行われていない地域があると感じています。

昨年、夏ごろでしたけれども、林議長と黒岩八景付近の道路が汚れてきたなどの話になり、地域整備課を通じて要請をしていただきました。後日、問い合わせがありましたので、場所を紹介しました。ついでにと、あそこもここもというような形で話したんですけど

も、予算の関係もあるので一部の実施に終わりました。道路の環境について、町長、どのような見解をお持ちでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 道路の環境整備についてお答えします。

林議員のご指摘は、国土交通省管理の国道17号に関するものだと思いますので、国交省からの情報を説明いたします。

まず、道路維持管理費の予算についてはここ数年は横ばいであること。毎年限られた予算で道路清掃、草刈り等を実施していかなければならないため、予算の有効活用のため、ある程度基準が設けられているとのこと。

基準では、道路清掃は年に1回程度の実施、除草については市民性を阻害する箇所などは適時実施することになっているそうです。したがって、沿道の草刈りについては、市民性を阻害するほどでない箇所については、1回も実施しないというところもあるそうです。

昨年追加でご相談のあった箇所については、速やかに対応が必要でなかったため、今後の状況を見て対応するということでした。

こうした状況からわかるとおり、国土交通省では、通行の安全性という観点を重視し、景観や環境という観点からは余り見ることができない状況にあると思います。

みなかみ町は、昨年6月にBRに登録が決定し、景観や環境を特に重視した取り組みが必要であると思っています。国道17号はメイン道路であり、町内外の人の目に特に触れる機会がある道路でありますから、道路脇の草が繁茂している状態ではBRにふさわしくないと考えています。なので、そういった話を進めていくことがある機会があるたびに、そういうことをお願いになってしまうんですけども、そういう話はしていきたいと考えています。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） ぜひ何回もといいますか、事あるごとにそういう要請をしていただけたらなと思っています。観光を主産業としている町として強化すべきと考えます。

昨年、九州への視察をさせていただきましたけれども、阿蘇山の相当の山の中まで含めてガードレールを飛び越えているような草や木はなかったと、そういうのを実感しました。そういう中で、利根沼田地区全体がこう相当汚れているのではないかなと感じています。よく旅行なんかに行っても、夜着いて朝出てくるときに、その泊まったところの周りを見て何かちょっとこうがっかりするような、そんな経験も何度もありました。

今バイパスだとか新治地区では、まちづくり協議会に参加する団体が、国道沿いが耕作していない空き地などを活用して花の植栽を行って環境改善を行っています。こうした取り組みに対して、町長の見解はいかがでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、広域で他町村と共同で要請したらどうかという点ですけども、これについて、国土交通省には今さっきと同じような、繰り返しになりますが、機会があるたび

にお願いしたいと思っています。

特に、うちの町はBRの登録をできていますので、その辺のところはアピールしつつ要望していきたいと考えています。また、国道だけではなくて、県道管理の道路についても、県の管理の道路についても、同じようなこと、そういうことが言えると思いますので、土木の懇談会や利根地方総合開発協会、そういった会議の中で、機会があるたびにそういった発言、また要望をしていきたいと考えています。

次に、まちづくり協議会による国道沿線の植栽活動についてなんですけれども、本年度、まちづくり協議会新治支部の活動で、国道17号線の植樹帯への植栽活動、押出の三差路、布施の須川をまたぐ連橋の前後の3カ所で実施しています。また、これとは別に、月夜野バイパスの登坂車線が設けられている沿線の植樹帯への植栽を月夜野フラワーロード管理運営事業として植栽活動を実施しています。

これらは、いずれも地域の方々が自分たちの地域は自分たちできれいにしようという思いからボランティアで実施しているものです。

こうした活動は、まさにBRの認定につながった要素の一つであると思いますので、大切な活動なので引き続き実施できるように事業の継続を手伝いしていきたいと、毎当局とでは考えております。

議長（林 喜美雄君） 林君。

（6番 林 誠行君登壇）

6番（林 誠行君） 注意深く見ていると、せっかくボランティアの皆さんが花を植えたりしていただいている場所の反対側は草ぼうぼうだったりしています。先ほどの町長の登坂車線の草があるんですけども、反対側の擁壁のもとが見えないぐらい草が生えています。あとは、地域整備課のほうに写真を撮って紹介したんですけども、まんてんの湯の擁壁なども、この4年の間に1回ぐらいあそこを上って作業をしている方を見たんですけども、その後、そのまま相当太い木が生えたりしています。ぜひ環境改善ということでお願いしたいなと思っています。

先日、知り合いに道路の環境というような、道路が汚れているからこんな質問をしてみようかなというような話をしましたら、昨年か一昨年の話のようなんですけども、まんてんの湯を起点に歩くイベントを行った団体があるそうです。終わった後、その団体から道路が汚れているということで苦情が寄せられているそうです。

こうした観光面でマイナスになっている現状なので、ぜひ改善を要望し、質問を終わりにしますが、何かありましたら、町長、お願いします。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 今、林議員がおっしゃられたところというのは、観光という町、うちの主要産業が観光の町ですから、そういったところで来ていただいた人に不愉快な、不快な思いをさせるということは、まずおもてなしの心がというところに反していると思います。

なので、これからも町道だけではなく、県道、国道を含め、そういった道の整備、景観を十分、皆様方、情報を所のほうにお話をさせていただいて、そういったものに事業を回していただけるような、そういう努力はしていきたいと思っていますので、これからも議

ているというような状況にあると思います。ただ答申をいただいて以降、議論が深まっていると、私自身も感じていませんし、事実深まっていないと思っております。

昨年9月定例会における教育長、町長の答弁にもありましたが、さまざまな課題があり、地域、保護者等への丁寧な説明を行っていく必要があること。32年度中に全てを完了させることは難しいこと。よって、33年4月の開校にはこだわらないことなどを申し上げたと思います。

引き続き、総合教育会議などの場で多くの議論を重ねてまいりたいと考えております。議員各位におかれましても、多岐にわたりご相談申し上げる場面が生ずると思われまので、ご理解、ご協力のほうをお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） 森君。

（2番 森 健治君登壇）

2番（森 健治君） そうですね、昨年の9月の定例会におきまして、林誠行議員のほうから学校の統合問題ということでいい質問がありました。

今回、なるべく重複しないように思っていたんですけども、かなり前教育長が丁寧に答えていらっしゃったんで、質問する内容も余り思い浮かばなかったんですけども、これについて、先ほど町長の答弁の中で、平成33年の4月の開校はやはり難しいというご見解でよろしいのでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） この答弁の中に、繰り返しになりますが、まだまだその統合問題について、皆さんの認識が深まっていないし、議論も深まっていないという中で、時期を、逆に言うと区切って、その問題を解決するという話になってしまうと、学校を統合したいための問題になってしまう可能性がある。そういうことではなく、何のために学校をという話になってくれば教育だろうということで、そういったものの議論を深める時間としても区切るべきではない。逆に言えば、ある程度、自由度を持ちながらそういう議論をしたほうがいいのではないかというような考え方は持っています。

議長（林 喜美雄君） 森君。

（2番 森 健治君登壇）

2番（森 健治君） 私もそう思います。やはり非常に難しい問題というのがあるのはわかっておりますけれども、この中で町長のお考えとして、例えば、統合する場合、一緒に小・中かえるのか、また中学校は中学校だけの先行させるとか、小学校は小学校を先行させるとかというのが、もしお考えがあったら聞かせていただきたいんですけども。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） 森議員がおっしゃられている提言は、恐らくこの中にもその小中一貫校をどうなんだというようなご提案もされています。まだまだこういったものを読み込んで理解していない状態にありますので、その辺のところも含めて、今ちょっとお時間をいただいた中で検討させていただきたいと。まだ教育会議も一度だけ開いたところですから、そういった中でこういったものも含めて検討させていただければというふうに考えております。

議長（林 喜美雄君） 森君。

(2番 森 健治君登壇)

2 番(森 健治君) これは、私がじかに聞いたわけではなく、人伝えに聞いた話ではあるんですけども、町長が、藤原の会合において、藤原地区に給食をつくる施設をつくるというようなお話がちょっと耳に入ってきたんですけども、これについては、町長はそういうふうにおっしゃったんでしょうか、どうでしょうか。

議長(林 喜美雄君) 町長。

町長(前田善成君) 藤原自体をとということではなく、町の、例えば、幼稚園、学校、小学校、中学校を含めた形で、これから議論していかなくちゃいけないと。独自の考え方があるところについては、それについてお話を聞いていくという、逆に言えば、どういうふうにするかというお話はできますよというお話の中で、そういうことも可能性としてはないわけではないですから、そういう可能性のお話はさせていただきました。

ただそれが必ずしも、こういう雑談の中でのお話の中ですから、逆に皆さんのお話を聞けというような議員の皆さんからのお話があるように、地域の人たちの希望、またそういったところを聞く必要もありますので、その中でそういうことが必要ですかというお話はさせていただきましたが、それが必ずしもそういう方向になるというものになるとは考えていませんので、その辺のところはご承知おきしていただきたいと思っています。

議長(林 喜美雄君) 森君。

(2番 森 健治君登壇)

2 番(森 健治君) 先ほど町長が言われたように、いろいろなところでそれなりの施策というのは必要になってくるかなと。やはりこういった問題で、一番難しい部分というのは、保護者の方とその地域の方の意見が決して一緒ではないといったところが非常に難しくなってくるのかなと思っております。これですね。さっき言ったって言ったら、その後うんと質問あったんですけども。そういったことで、藤原を残していくのかなというようなことも検討に入っているのかなといったような声も聞かれましたので、その辺はいかがでしょうか。

議長(林 喜美雄君) 町長。

町長(前田善成君) 今、森議員にお話ししたように、まだ可能性としてどうだという形ではないので、例えばですけども、その幼稚園を復活させたいというお話があったりとか、そういったものもろもろのお話を聞かせている段階であります。

そういった中で、その可能性としてそういうことを考えてもらえませんか、こういうことはどうですかということの提案について、逆にこちらでも聞くという姿勢は持っておりますので、それについてお話をさせていただいたというのが、恐らく本当の話で。逆に正式な場所でお話をしたというよりは、雑談の中で話をさせてもらっているというほうが正解かなと、私は思っています。

なので、今さっきも言わせていただいたように、繰り返しになりますが、それについてお話を聞かせていただくという態度で話をさせていただいているので、それがひとり歩きするようなことというのは、必ずしも私の本意ではないというのが今の見解です。

議長(林 喜美雄君) 森君。

(2番 森 健治君登壇)

2 番(森 健治君) まあ、この答申については、町長の諮問に対する答申でございますので、今後、町長がリーダーシップをとっていただきまして、この非常に難しい統合問題ということを進めていっていただきたい。決して何というんですか、みなかみが嫌いになるような町民が出ないような施策で、方向で丁寧に説明していっていただきたいと思うんですけども、この質問の最後に、ぜひ町長の決意を、これ統合に対する町長の決意をお聞かせいただければと思います。

議長(林 喜美雄君) 町長。

町長(前田善成君) 繰り返しになって申しわけないんですが、今、森議員のほうからもお話出ました。これについて、丁寧に進めていかなくちゃいけないという認識を十分持っています。そういった中で、どういう方法があるのか、どういったことがあるのか、どんなニーズがあるのか、どういう考え方があるのかということも含めながら、皆さんと協議をしていく時間とまたそういった機会、そういったものをこれからもふやしていかなくていけないと思っていますので、その辺のところ、私の考えとしては、皆さんといろいろな話を同一化、見識の同一化をするために話を進めていきたいと思っていますので、その辺のところでご理解いただければと思っています。

議長(林 喜美雄君) 森君。

(2番 森 健治君登壇)

2 番(森 健治君) それでは、この質問については以上にさせていただきます、次に、都市計画道路の現在の進捗状況、また今後の計画についてお聞きしたいんですけれども、これも昨年、ちょうど1年前になろうかと思うんですけれども、山田議員のほうで同様の質問がありましたので、なかなかこれも重複してしまう部分が出てきてしまうかと思うんですけれども、ご容赦いただきたいと思います。

先ほども申しましたように、昨年3月に質問が出ましたので、進捗状況というのは、あれから徒渉橋が完成したのかなぐらいだと思いますので、主に今後の予定ということでお聞かせいただきたいと思います。

議長(林 喜美雄君) 町長。

町長(前田善成君) 区間として、未供用になっている区間768メートルのうち、388メートルについては、車道部の表層舗装のみが残して工事を完成しています。また、残り380メートル、これすみません。言わなかったですよ。悪戸矢瀬線についてなんですけれども、残りの部分について、順次供用開始を目的にやっていきたいと思っています。21年度から25年度までの5カ年について、中間部の整備を実施してまいりたいと思っています。380メートルのその未整備区間について整備を終えていきたいと思っていますので、その辺について順次工事を進める方向に考えています。

悪戸矢瀬線の工事が終わってから、その先の道路のほうの進捗を考えていますので、そういった方向で、前に山田議員の質問に対してお話しした内容とほとんど変わらない内容になると思うのかなと思います。これ全部読み上げても同じような話になってしまうので、その辺のところは今、森議員のほうからもそういう話だろうということだったので、そう

いう話ですというお話をさせてもらっています。

議長（林 喜美雄君） 森君。

（2番 森 健治君登壇）

2番（森 健治君） たしか記憶によりますと、昨年の答弁の中では、真政悪戸線を進めてからというようにご答弁だったので、最後にその380メートルのほうにかかるのかなというように思っていました。

先ほど町長の答弁では、そちらを終わらせてからということなので答弁いただいたわけなんですけれども、本当に徒渉橋が完成いたしまして非常に便利になったという声が非常に上がってきております。で、余計その768メートルですか、の未整備区間というのは非常に浮き彫りになってきているというのが、今の現状であります。

私も至るところで、いつだいというようなことは言われますので、先ほど町長の答弁の中で、そちらをかかるということをお願いしたので、非常に期待するところがございます。

またですね、町長、利根商の理事長ということで、あそこでやはり問題なのは、先般も利根商のほうからの説明でも、防球ネットのほうは高くするというような説明があったかと思うんですけれども、それについての進捗状況みたいなものがもしわかれば、わからなければいいです。よろしくお願いします。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） そうですね。今さっきの悪戸矢瀬線に関する防球ネットなんですけれども、これもともと道路には利根商の野球場があって隣接地に整備するというものだったので、道路が後から整備されるということになると、道路を整備したほうに防球ネットを設置する義務が生じると考えます。

なので、逆に道路より先に野球場のほうがありましたら、まだ道路ができていませんので、供用開始ができた時点でうちの町でその防球ネットをつくるような、そういうような考え方でいます。

ちょっと繰り返しになりますけれども、未整備区間について用地の取得をこし、今年度考えまして、それから、有利な交付金事業というのを探して早期に国の交付金をいただいて道路のほうに完成を目指していきたいとは思っていますので、その辺をつけ加えさせていただきます。

議長（林 喜美雄君） 森君。

（2番 森 健治君登壇）

2番（森 健治君） 防球ネットにしても、今後一番心配されるのは、利根商の野球部の強化ということで、それなり、それなりと言ったら失礼なんですけれども、今までよりもボールの速い生徒、そしてまたバットスイングの速い生徒となりますと、やはりフェールボールもより高く上がるというのが、今の段階よりも高く上がる可能性というのは非常に高いというように聞いております。余り野球詳しくはないのでよくわからないんですけれども、そういうような声もありますので、それなりちゃんと計算をして決して越えることのないような、そんな設備にしてもらいたいと思います。

もう一度確認なんですけれども、先に未整備区間380メートルのほうを手をつけるといふことでよろしいのでしょうか。

議長（林 喜美雄君） 町長。

町長（前田善成君） そちらでよろしいと思います。

すみません。あとは防球ネットにつきましては、道路管理をする側にやっぱり安全を確保するというような責任が生じますので、それについては、うちの町のほうで予算化して道路の進捗とあわせながら、防球ネットのほうの設置をしていきたいと考えております。

議長（林 喜美雄君） 地域整備課長。

（地域整備課長 古川文雄君登壇）

地域整備課長（古川文雄君） すみません。町長がやるとお答えしているのに私がしゃべるのもなんなんですけれども。

道路事業については、用地買収が伴いますので、用地買収がうまくいかなければ次に進むことはなかなか難しいですので、その辺についてはご理解いただきたいというふうに思います。

防球ネットについては、打ち出しの角度であるとか、そういったものを計算してやっていますので、さらに再計算して安全なものにしたいというふうに考えます。

以上です。

議長（林 喜美雄君） 森君。

（2番 森 健治君登壇）

2番（森 健治君） そうですね。今、学校の統合と同じで地権者の方もいらっしゃる。やはりそういった地権者の方にも、また懇切丁寧にいろいろ説明をされて、納得した上でやっていただくのが一番なのかなと思っておりますので、そういった方向で進めていただければと思います。

決意を聞こうと思ったんですけれども、この辺で私の質問を終了させていただきます。終わります。

議長（林 喜美雄君） 町長。

答弁あるそうです。

町長（前田善成君） その未整備区間について、私、自分の中で考えている話をさせていただいていますから、そこで用地買収が進んでいないということは存じています。よりは、そういうこと、進めていくように頑張っていきたいというような決意表明だと思ってお話しさせていただいたと思っていますので、その辺についてはご理解いただければと。

でも、またそういったときに地元の議員である森議員のお力をおかりしないと、なかなか道路の工事の進捗はできませんので、その辺のところは逆にこちらから改めてお願い申し上げて、私の答弁にさせていただきます。よろしくをお願いします。

議長（林 喜美雄君） 森君。

（2番 森 健治君登壇）

2番（森 健治君） そういった方向でお願いしたいと思うんですけれども、5月以降のことはちょっと確約できませんので、ご了承いただきたいと思います。

以上で終わります。

議長（林 喜美雄君） これにて2番森健治君の質問を終わります。
（「議長、暫時休憩願います」の声あり）

議長（林 喜美雄君） 暫時休憩。
（15時43分 休憩）

※休憩中に答弁について確認がされた。

（15時45分 再開）

議長（林 喜美雄君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

散 会

議長（林 喜美雄君） 以上で本日の議事日程第1号に付された案件は全て終了いたしました。
明日3月7日は、午前9時より一般質問を再開いたします。
本日は、これにて散会いたします。大変ご苦勞さまでした。

（15時46分 散会）